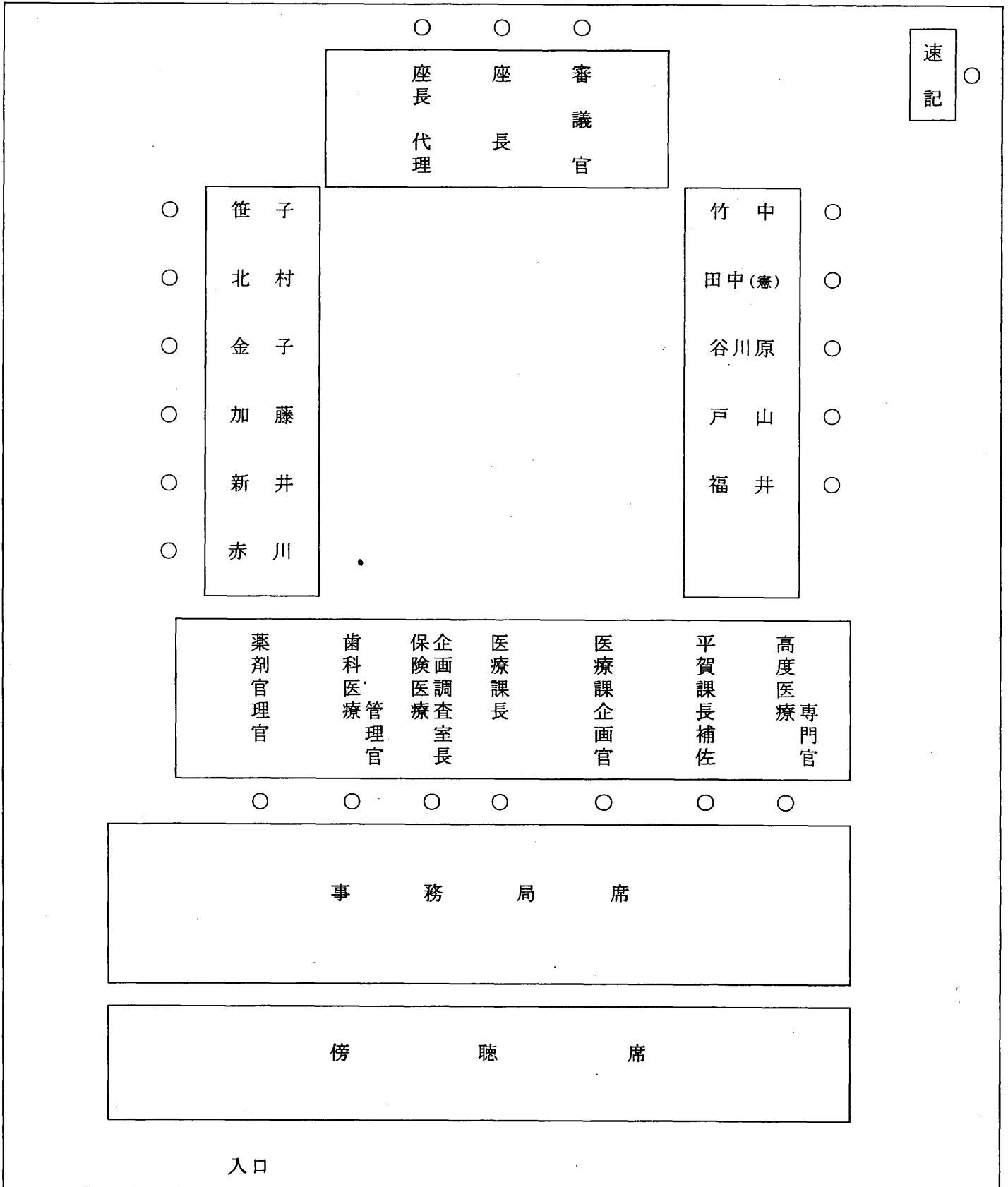


第47回 先進医療専門家会議 座席表

(日時) 平成22年4月16日(金) 15:00 ~

(場所) 全国都市会館第2会議室(3階)



第47回 先進医療専門家会議 議事次第

日時：平成22年4月16日

午後3時00分～

会場： 全国都市会館

第2会議室（3階）

議 題

- 1 第3項先進医療（高度医療）に係る新規技術の科学的評価等について
- 2 第2項先進医療に係る新規技術の届出状況について
- 3 平成22年度診療報酬改定における対応について
 - ・ 先進医療技術の施設基準の見直し等（報告）

先進医療専門家会議構成員

氏 名	役 職	分 野
赤川 安正	広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授	歯科
新井 一	順天堂大学医学部附属順天堂医院長	脳神経外科
飯島 正文	昭和大学教授	皮膚科
岩砂 和雄	医療法人社団友愛会岩砂病院第一理事長	治験
加藤 達夫	国立成育医療研究センター総長	小児科
金子 剛	国立成育医療研究センター医長	形成外科
北村 惣一郎	国立循環器病研究センター名誉総長	心臓血管外科
笹子 三津留	兵庫医科大学教授	消化器科
◎ 猿田 享男	慶應義塾大学名誉教授	内科（内分泌）
竹中 洋	大阪医科大学長	耳鼻咽喉科
田中 憲一	新潟大学教授	産婦人科
田中 良明	日本大学客員教授	放射線科
谷川原 祐介	慶應義塾大学教授	薬学
辻 省次	東京大学大学院医学系研究科教授	神経内科
坪田 一男	慶應義塾大学教授	眼科
戸山 芳昭	慶應義塾大学教授	整形外科
永井 良三	東京大学教授	循環器内科
樋口 輝彦	国立精神・神経研究センター総長	精神科
福井 次矢	聖路加国際病院長	医療経済
○ 吉田 英機	昭和大学名誉教授	泌尿器科
渡邊 清明	国際医療福祉大学教授	臨床検査

◎ 座長

○ 座長代理

第2項先進医療の新規届出技術について
(2月受付分)

先 - 1
22.4.16

整理番号	技術名	適応症等	保険給付されない費用 ^{※1※2} (「先進医療に係る費用」)	保険給付される費用 ^{※2} (「保険外併用療養費」)	受付日 ^{※3}	事前評価 担当構成員 (敬称略)	総評	その他 (事務的対応等)
203	子宮全摘術後の膣断端脱に対する腹腔鏡下膣仙骨固定術	膣断端脱	18万8千円 (1回)	37万1千円	H22.1.20	—	—	返戻 (書類不備)
204	前眼部三次元画像解析	角膜疾患(角膜ジストロフィー、角膜白斑、角膜変性、水疱症角膜症、角膜不正乱視、円錐角膜、角膜移植後)、緑内障	5千円 (1回)	3千円	H22.1.27	—	—	返戻 (書類不備)
205	血清ペプシノゲンの変化率によるH.pyloriの除菌判定	H.pylori陽性の胃潰瘍、十二指腸潰瘍	3千円 (1回)	2万2千円	H22.2.9	—	—	返戻 (取り下げ)
206	整形外科領域感染症におけるリアルタイムPCR法を用いた迅速起炎菌同定	人工関節周囲感染、化膿性関節炎、化膿性脊椎炎、感染性偽関節、骨髄炎	6万6千円 (2回)	315万3千円	H22.2.15	—	—	返戻 (書類不備)

※1 医療機関は患者に自己負担を求めることができる。

※2 典型的な1症例に要する費用として申請医療機関が記載した額。

※3 原則として21日以降の受付の場合は翌月受付分として処理している。

第2項先進医療の新規届出技術について
(届出状況/3月受付分)

先 - 2
22.4.16

整理番号	技術名	適応症等	保険給付されない費用 ^{※1※2} (「先進医療に係る費用」)	保険給付される費用 ^{※2} (「保険外併用療養費」)	受付日 ^{※3}
207	NKT細胞を利用した頭頸部癌に対する免疫療法	標準治療の終了後の頭頸部再発癌症例、および微小残存癌が疑われる症例	31万2千円 (1回)	2千円	H22.2.25
208	フローサイトメトリーによるパーフォリン蛋白の発現スクリーニング	血球貪食症候群(家族性血球貪食症候群2型の診断)	1万9千円 (1回)	166万9千円	H22.3.11
209	慢性骨髄性白血病治療薬イマチニブ血中濃度測定法	慢性骨髄性白血病	5千円 (1回)	55万8千円	H22.3.17

※1 医療機関は患者に自己負担を求めることができる。

※2 典型的な1症例に要する費用として申請医療機関が記載した額。

※3 原則として21日以降の受付の場合は翌月受付分として処理している。

高度医療評価会議において承認された新規技術に
対する事前評価結果等について

先 - 3
2 2 . 4 . 1 6

整理 番号	技術名	事前評価 担当構成員 (敬称略)	総 評	適応症	医薬品・ 医療機器情報	保険給付されない費用 ^{※1} ※2 ('高度医療に係る費用')	保険給付される費用 ^{※2} ('保険外併用療養費')	その他 (事務的対応等)
007	パクリタキセル、カルボプラチン及びペバシズマブ併用療法並びにペバシズマブ維持療法	田中 憲一	適	再発卵巣癌、卵管癌又は原発性腹膜癌	一般名:ペバシズマブ 製品名:アバステン (中外製薬株式会社製)	13万9千円 (21回)	110万2千円	別紙1
008	パクリタキセル静脈内投与及びカルボプラチン腹腔内投与併用療法	田中 憲一	適	上皮性卵巣癌、卵管癌又は腹膜原発癌	一般名:パクリタキセル 製品名:パクリタキセル注「NK」 (日本化薬株式会社製) 製品名:パクリタキセル注「サワイ」 (沢井製薬株式会社製) 一般名:カルボプラチン 製品名:パロプラチン注射液 (プリストル・マイヤーズ株式会社製) 製品名:カルボプラチン点滴静注液「サンド」 (サンド株式会社製)	12万9千円 (6回)	71万1千円	別紙2

※1 医療機関は患者に自己負担を求められることができる。

※2 典型的な1症例に要する費用として申請医療機関が記載した額。

高度医療の内容（概要）

高度医療の名称： パクリタキセル、カルボプラチン及びベバシズマブ併用療法並びにベバシズマブ維持療法
適応症： 再発卵巣癌、卵管癌又は原発性腹膜癌（詳細は別添参照）
内容： （先進性） 進行卵巣癌、卵管癌及び原発性腹膜癌は、術後タキサン系抗癌剤及びプラチナ系抗癌剤併用による初回治療が奏効した患者においてもその 60～70%が再発する。このうち治療終了後6ヶ月以上経過した後に再発する化学療法感受性再発症例に対して、現時点での標準化学療法はタキサン系抗癌剤及びプラチナ系抗癌剤の再投与である。しかし依然予後が不良のことが多いため更なる有効性の高い治療が望まれている。 ベバシズマブは Vascular Endothelial Growth Factor (VEGF) に対するモノクローナル抗体であり腫瘍増殖を促す血管新生を抑制し、現在は結腸・直腸癌と進行肺癌に保険適応がある。この VEGF 阻害剤は、基礎実験や第Ⅱ相試験において再発卵巣癌、腹膜癌及び卵管癌に対してこれまでの抗腫瘍薬には見られなかった高い有効性を示している。 本高度医療は、このベバシズマブを、現在標準化学療法とされているタキサン系抗癌剤（パクリタキセル）及びプラチナ系抗癌剤（カルボプラチン）と併用し、さらに維持療法として単独投与することによって、予後を改善しようとするものである。 （概要） この化学療法は 21 日間を 1 サイクルとして行い、パクリタキセルは第 1 日目に標準量（175mg/m ² ）を経静脈投与及びカルボプラチンを第 1 日目に標準量（※AUC 5 (mg/L)・h）を経静脈投与に加えて、ベバシズマブを第 1 日目に標準量（15mg/kg）を経静脈投与し、計 6 サイクルを行う。その後、維持療法としてベバシズマブを 3 週間毎に標準量（15mg/kg）を経静脈投与する。 ※AUC： area under the blood concentration time curve（薬物血中濃度－時間曲線下面積） （効果） 従来の標準化学療法にベバシズマブ併用し、さらにベバシズマブを維持療法として用いることによって、予後改善（生存期間と無増悪生存期間の延長）及び QOL の改善が期待できる。 （高度医療に係る費用） 合計 21 サイクル（併用療法として 6 サイクル＋維持療法として 15 サイクル）のベバシズマブを投与した場合、高度医療にかかる一人あたりの試験薬剤費用は約 909 万円であるが、ベバシズマブは米国 NCI より無償提供されるため、実際の高度医療にかかる費用は約 13 万 9 千円である。

【別添】 「パクリタキセル、カルボプラチン及びベバシズマブ併用療法並びにベバシズマブ維持療法」
の適応症（申請書類より抜粋）

選択基準

- 1) 術前に FIGO 進行期 II～IV 期の上皮性卵巣癌、卵管癌または腹膜原発癌と推定される患者。
- 2) 開腹手術が予定されている患者（本登録には開腹術の施行が必須である）。
- 3) 仮登録時の年齢が 20 歳以上の患者（上限は規定しない）。
- 4) 一般状態（ECOG Performance Status）が 0～2 である患者（Appendix 1 参照）。
- 5) 腹腔用リザーバーポートシステムの設置の同意が得られている患者。
- 6) 手術施行から 8 週間以内に抗癌剤投与の予定である患者。
- 7) 十分な主要臓器機能を有する患者（臨床検査は手術予定日前 28 日以内に行われたものとする）。

好中球数	1,500/mm ³ 以上
血小板数	100,000/mm ³ 以上
AST (GOT)、ALT (GPT)	100IU/L 以下
血清総ビリルビン	1.5mg/dl 未満
血清クレアチニン	1.5mg/dl 未満
心電図	正常範囲または無症状でかつ治療を必要としない程度の異常（心疾患、重篤な不整脈のない症例）
末梢神経症状	CTCAE Grade1 以下（知覚性、運動性）

- 8) 治療開始後生存期間が 3 ヶ月以上期待できる患者。
- 9) 本試験参加について文書にて本人からの同意（不可能な場合はその法定代理人などの患者に代わって同意を成し得る者）が得られた患者。

除外規準

- 1) 組織型が卵巣境界悪性腫瘍であると予測される患者。
- 2) 当該疾患に対し、化学療法および放射線療法による前治療が行われている患者。
- 3) 全ての活動性の重複癌患者。（同時性重複がん及び無病期間が 5 年以内の異時性重複癌。ただし皮膚の基底細胞癌と扁平上皮癌、並びに局所治療により治癒と判断される上皮内癌もしくは粘膜内癌相当の病変は活動性の重複がんに含まない。）
- 4) 重篤な合併症を有する患者。
- 5) ポリオキシエチレンヒマシ油（クレモホール EL[®]）含有製剤（シクロスポリンなど）および、硬化ヒマシ油含有製剤（注射用ビタミン剤など）の投与歴に関連して過敏症が発現したことがある患者。
- 6) 持続的なドレナージを必要とする胸水貯留を認める患者。
- 7) 明らかな感染症を有する患者。
- 8) 妊娠、授乳中及び妊娠している可能性のある患者。
- 9) 脳転移症状を有する患者。
- 10) 本試験の完遂やその後のフォローアップが困難であると予測される患者、または担当医が不相当と判断した患者。

先進医療評価用紙(第 1-2 号)

先進技術としての適格性	
先進医療 の名称	パクリタキセル、カルボプラチン及びベバシズマブ併用療法並びにベバシズマブ維持療法
社会的妥当性 (社会的倫理的 問題等)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 倫理的問題等はない。 B. 倫理的問題等がある。
現時点での 普及性	A. 罹患率、有病率から勘案して、かなり普及している。 B. 罹患率、有病率から勘案して、ある程度普及している。 <input checked="" type="checkbox"/> C. 罹患率、有病率から勘案して、普及していない。
効率性	既に保険導入されている医療技術に比較して、 A. 大幅に効率的。 <input checked="" type="checkbox"/> B. やや効率的。 C. 効率性は同程度又は劣る。
将来の保険収 載の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> A. 将来的に保険収載を行うことが妥当。 B. 将来的に保険収載を行うべきでない。
総 評	総合判定: <input checked="" type="checkbox"/> 適 ・ 否 コメント: 再発卵巣がんに対する有効な抗がん剤に乏しい今日、本申請は国際共同臨床試験で立案されており、迅速な治験による有効性の評価も期待できよう。実施計画書も十分な検討を行った上で、作成されていると思われる。

備考 この用紙は、日本工業規格 A 列 4 番とすること。医療機関名は記入しないこと。

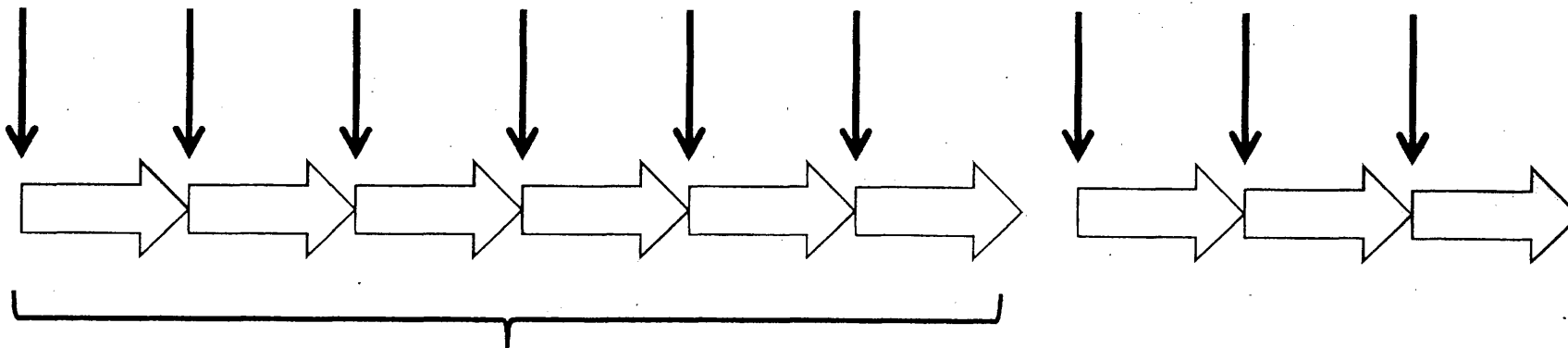
パクリタキセル、カルボプラチン及びベバシズマブ併用療法 並びにベバシズマブ維持療法のプロトコール

カルボプラチン
3週間毎

パクリタキセル
3週間毎

ベバシズマブ
3週間毎

ベバシズマブ
3週間毎



計6サイクル

⑦

高度医療の内容（概要）

高度医療の名称： パクリタキセル静脈内投与及びカルボプラチン腹腔内投与併用療法

適応症： 上皮性卵巣癌、卵管癌又は原発性腹膜癌（詳細は別添参照）

内容：

（先進性）

卵巣癌、卵管癌及び原発性腹膜癌に対する標準的な化学療法は、パクリタキセルとカルボプラチンという抗悪性腫瘍薬を経静脈的に投与する治療法であるが、予後が不良のことも多く更なる有効性の高い治療が望まれている。

その可能性として考えられているものの1つとして、抗悪性腫瘍薬の腹腔内投与がある。現在までに米国で複数の大規模比較試験が行われシスプラチン腹腔内投与の有用性が示されてきたものの、標準治療としては毒性の問題等が原因で広まっていない。

本治療法は、シスプラチンより毒性の低いカルボプラチンの腹腔内投与により、更なる有用性を示そうとするものである。

（概要）

局所麻酔または硬膜外麻酔下の小開腹を行い、腹腔ポートを留置する。このポートより、カルボプラチンを腹腔内に直接投与する。また、全身化学療法としてパクリタキセル経静脈内投与を併用する。

この化学療法は21日間を1コースとして行い、パクリタキセルは第1日目、第8日目及び第15日目に標準量(80mg/m²)を経静脈投与、カルボプラチンを第1日目に標準量(※AUC6(mg/L)・h)を腹腔内投与し、計6コースを行う。

※AUC：area under the blood concentration time curve(薬物血中濃度－時間曲線下面積)

（効果）

予後、毒性及びQOLを比較して、カルボプラチン腹腔内投与の有用性を検証する。

（高度医療に係る費用）

高度医療にかかる一人あたりの試験薬剤費用(6サイクル分)は約98万1千円であるが、試験薬剤が無償提供されるので、実際の高度医療にかかる費用は約12万9千円である。

【別添】「パクリタキセル静脈内投与及びカルボプラチン腹腔内投与併用療法」の適応症
(申請書類より抜粋)

選択基準

1. 患者は、現在再発している上皮性卵巣癌、原発性腹膜癌もしくは卵管癌の組織学的診断を受けていなければならない。
2. 組織学的に、以下の上皮細胞型の患者が適格である。漿液性腺癌、類内膜腺癌、粘液性腺癌、未分化癌、明細胞腺癌、混合型上皮性悪性腫瘍、移行上皮癌、悪性ブレンナー腫瘍、またはその他の特定されていない腺癌。
3. 患者は、初回のプラチナ-タキサン療法(3サイクル以上)に対して完全奏効を示していなければならない。
4. 初回化学療法に対する完全奏効には以下の所見が含まれていなければならない: 身体所見(Physical Exam)異常なし、内診異常なし、ベースラインで上昇していた場合は、CA125の正常化。必要条件ではないが、初回療法完了後に行われたいかなるX線評価(例: CT、MRI、PET/CTなど)においても、陰性である必要がある。
5. すべての患者は、初回化学療法(プラチナおよびタキサン両製剤)完了後6ヵ月以上、進行の臨床的所見がない無治療期間を経ていなくてはならない。初回療法には生物学的薬剤(ベバシズマブ)が含まれていてもよい。
6. 初回治療には、臨床的または病理学的完全奏効の後に維持療法が含まれることがある。しかしながら、殺細胞性化学療法による維持療法は、再発病変が立証される前の最低6ヵ月間は中断されていなければならない。生物学的薬剤による治療またはホルモン療法で維持療法を受けている患者は、初回殺細胞性化学療法完了後6ヵ月以上経過して再発が立証され、かつ、生物学的療法の最終投与から4週間以上経過していれば、適格である。
7. GOG-0198患者または生化学的もしくは測定不能な再発病変に対するホルモン療法を受けている患者は、初回殺細胞性化学療法完了後6ヵ月以上経過して再発が立証されれば、適格である。最後のホルモン療法から4週間以上経過していなければならない。
8. 患者は、CA-125の上昇(生化学的再発)または以下に記すような臨床的に明らかで、測定可能もしくは測定不能な再発病変によって、再発が確認されていなければならない。
 - 8.1 生化学的再発は、CA-125が基準値上限の2倍以上として定義される。CA-125が100U/mL未満の患者は、4週間経過するまでに確定のための2回目の測定を受けなければならない。100U/mL以上の患者は、確定のための測定をすることなく登録してもよい。適格性に関するCA-125評価は、穿刺もしくはその他の手術手技から4週間以上経過後に実施されなければならない。

注意: 生化学的再発患者は、手術へのランダム化割付には不適格であり、化学療法へのランダム化割付のみの対象として考慮されるべきである。
 - 8.2 測定可能病変(RECIST)は、少なくとも一次元で正確に測定できる(最長径が記録される)1つ以上の病変と定義される。各病変は、従来の検査法、MRIまたはCTで測定する場合は20mm以上、ヘリカルCTで測定する場合は10mm以上でなければならない。
 - 8.3 測定不能病変には、症候性の腹水もしくは胸水、試験実施計画書3.142に定義されるようなRECIST基準に適合しない病変、または生検で確定診断された再発が含まれる。臨床的に明らかな測定不能病

変を有している患者においては、試験実施計画書 3.141 で定義されるような CA-125 の上昇が認められるか、または再発が組織学的に確認されなければならない。

注意：定義による臨床的に明らかな測定不能病変が認められる患者は、手術へのランダム化割付には不適格であり、化学療法へのランダム化割付のみの対象として考慮されるべきである。

9. 必要な検査所見：

- 9.1 骨髄機能：好中球数（ANC）は $1,500/\text{mm}^3$ 以上。
 - 9.2 血小板数： $100,000/\text{mm}^3$ 以上（CTCAE Grade 0-1）。
 - 9.3 腎機能：クレアチニンは 1.5mg/dL ($133 < \text{mol/l}$) 以下、またはクレアチニンクリアランスは 60mL/min 以上。
 - 9.4 肝機能：総ビリルビンは基準値上限の 1.5 倍以下（CTCAE Grade 1）。SGOT/AST およびアルカリフォスファターゼは、肝転移がない場合は基準値上限の 2.5 倍以下、肝転移がある場合は基準値上限の 5.0 倍未満。
 - 9.5 患者の尿タンパク - クレアチニン比（UPCR）は、 1.0mg/dL 未満でなければならない。
10. 腫瘍減量手術の候補でない患者は、化学療法のランダム化割付に適格となる。試験担当医師の判断で、完全な腫瘍減量が不可能な場合または病弱のため検査および debulking が不可能な場合、患者は腫瘍減量手術の候補とはみなされない。
11. 患者は、試験実施計画書 Section 7.0 で規定された登録前の観察・検査の実施基準をすべて満たしていなければならない。
12. 患者は、承認されたインフォームドコンセントおよび健康情報の公開許諾についての同意書に署名していなければならない。
13. 患者の GOG パフォーマンスステータスは、0、1、または 2 でなければならない。
14. 患者は、18 歳以上でなければならない。

除外規準

1. 前化学療法を 2 レジメン以上受けている患者（維持療法はカウントしない）。
2. 併用免疫療法または放射線療法を受けている患者。
3. 腹腔または骨盤への放射線療法の既往がある患者。
4. 過去に境界悪性（低悪性度）上皮性癌（Grade 0）の組織学的診断を受けて外科的に切除し、その後それとは関係なく新たに浸潤性上皮性卵巣癌または原発性腹膜癌を発症した患者は、試験実施計画書 Section 3.12 に記載した基準を満たしていれば、適格である。
5. 水分および栄養分の非経口投与を必要とし、部分的腸閉塞または腸穿孔の証拠を有する患者。
6. 腹部または骨盤内の腫瘍（卵巣癌、卵管癌、および原発性腹膜癌以外）に対する化学療法の既往がある患者。ただし、限局した乳癌の補助化学療法が登録の 5 年以上前に完了しており、再発または転移が認められない患者は適格とする。
7. 原発性子宮体癌の同時重複または既往がある患者。ただし、以下の条件をすべて満たす場合にはその限りではない：病期は IB 期以下：筋層浸潤が浅層にとどまり、脈管もしくはリンパ管侵襲がない；乳頭状漿液性、明細胞性またはその他の FIGO Grade 3 の病変などの低分化亜型ではない。
8. コントロール不良の感染症を有する患者。

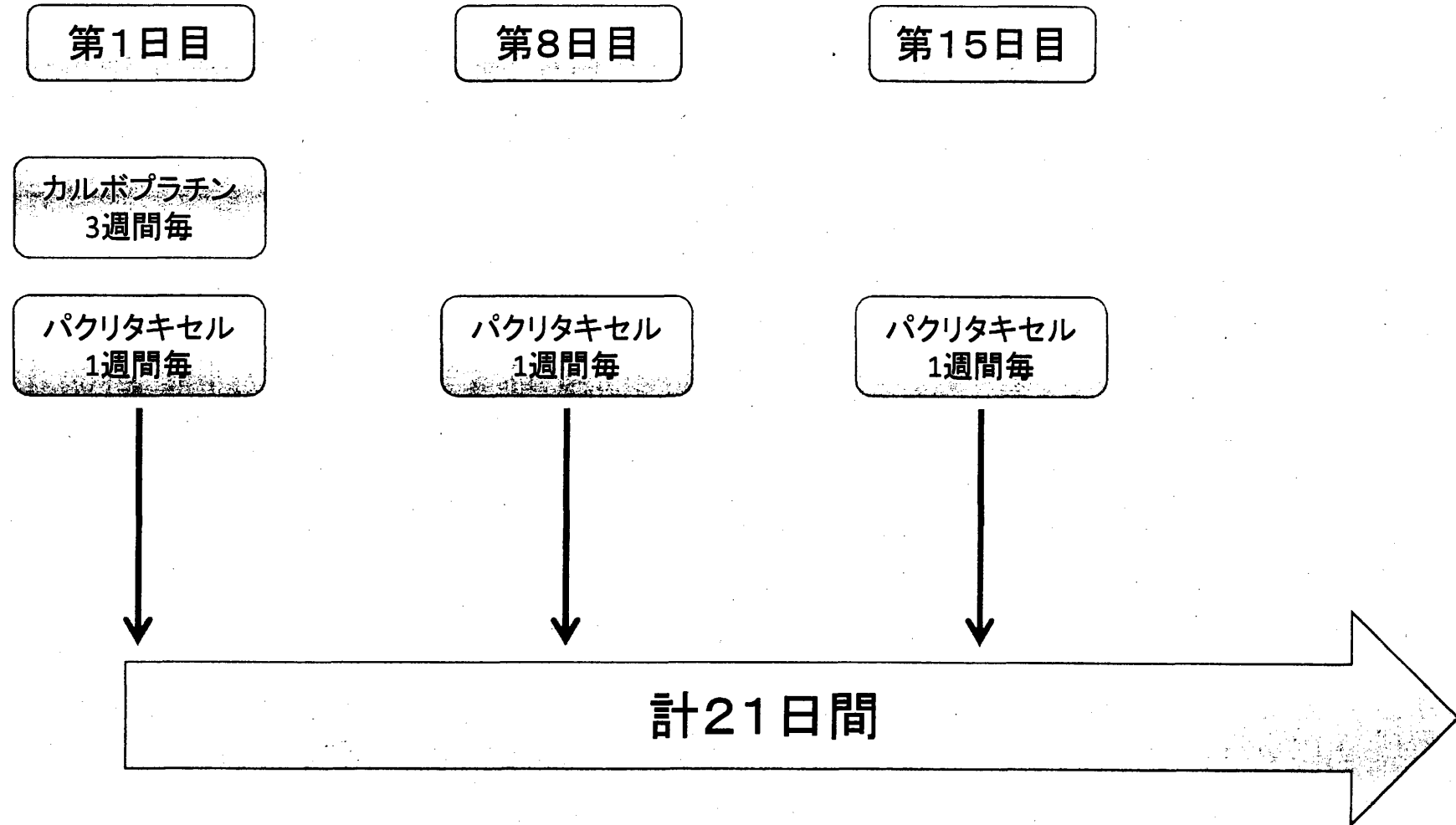
9. 本試験の順守を大幅に制限するか、患者に重度のリスクまたは生存率の低下をもたらすと思われる、悪性腫瘍に関係のない重度の内科疾患を併発している患者。
10. Grade 2以上の末梢神経障害がある患者。
11. カルボプラチンおよび/またはパクリタキセルもしくは化学的に類似する化合物にアレルギー反応の既往のある患者。ただし、これらの化学療法剤にアレルギー（過敏）反応がある患者が脱感作プログラムまたはプロトコル後の再治療に成功した場合は、除外しない。
12. チャイニーズハムスター卵巣細胞の産物またはその他の組換えヒト抗体またはヒト化抗体に対して過敏症であることが判明している患者。
13. 妊娠の可能性があり適切な避妊を行っていない患者、妊婦または授乳婦。
14. 非メラノーマ皮膚癌を除くその他の浸潤性悪性腫瘍があり、過去5年以内にその他の癌の存在を示す証拠があった（もしくはある）、または以前の癌の治療が本プロトコルの治療に禁忌である患者。
15. 活動性の出血があるか、または出血障害、血液凝固異常もしくは大血管浸潤を伴う腫瘍など出血のリスクが高い病理学的条件を有する患者。
16. 本試験の治療初日より5年以内に、原発性脳腫瘍、標準的な薬物療法ではコントロール不可能な痙攣、脳転移、もしくは脳卒中の既往を含む中枢神経障害の既往または身体所見（Physical Exam）での証拠がある患者。
17. 以下のような臨床的に重大な心血管疾患がある患者。
 - 17.1 重大な心臓伝導障害がある患者、すなわちPR間隔が0.24秒を超える、または2度もしくは3度の房室ブロックが認められる。
 - 17.2 収縮期に150mmHgを超えるまたは拡張期に90mmHgを超える、コントロール不良の高血圧。3.383登録前6ヵ月未満の心筋梗塞、不整脈もしくは不安定狭心症。
 - 17.3 New York Heart Association (NYHA) Grade 2以上のうっ血性心不全。
 - 17.4 投薬治療を必要とする重篤な不整脈。
 - 17.5 Grade 2以上の末梢血管疾患（例外：（24時間未満）外科的処置が不要で、一過性の虚血症状）。
 - 17.6 6ヵ月以内の脳血管障害（CVA）の既往。
18. 本試験の治療開始日前28日以内に大きな外科的処置、切開生検、抜歯もしくはその他の開放創をもたらす歯科の手術/処置、または重大な外傷を受けていたか、または本試験の期間中に大きな外科的処置の必要性がある患者。本試験の治療開始日前7日以内に血管内留置針もしくは生検が行われる可能性のある患者。
 - 18.1 治療前の二次的腫瘍減量手術を行う患者は、2サイクル目よりベバシズマブの投与を開始する。
 - 18.2 腫瘍減量以外の目的で治療前に手術を受ける患者も、Section 3.1の選択基準を満たしていれば、試験に参加することができる。ベバシズマブを含む群にランダム化割付された患者については、その手術から最低28日経過していることが参加の条件となる。

先進技術としての適格性

<p>先進医療 の名称</p>	<p>上皮性卵巣癌・卵管癌・腹膜原発癌に対するパクリタキセル毎週静脈内投与併用 カルボプラチン 3 週毎腹腔内投与</p>
<p>社会的妥当性 (社会的倫理的 問題等)</p>	<p><input type="checkbox"/> A. 倫理的問題等はない。 <input type="checkbox"/> B. 倫理的問題等がある。</p>
<p>現時点での 普及性</p>	<p>A. 罹患率、有病率から勘案して、かなり普及している。 <input checked="" type="checkbox"/> B. 罹患率、有病率から勘案して、ある程度普及している。 C. 罹患率、有病率から勘案して、普及していない。</p>
<p>効率性</p>	<p>既に保険導入されている医療技術に比較して、 A. 大幅に効率的。 <input checked="" type="checkbox"/> B. やや効率的。 C. 効率性は同程度又は劣る。</p>
<p>将来の保険収 載の必要性</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> A. 将来的に保険収載を行うことが妥当。 B. 将来的に保険収載を行うべきでない。</p>
<p>総 評</p>	<p>総合判定: <input checked="" type="checkbox"/> 適 ・ 否 コメント: 本試験は、パクリタキセルの毎週投与との併用に関する安全性、有効性を慎重に評価する目的で、第Ⅱ/Ⅲ相試験のデザインが採用されており、「適切である」と思われる。</p>

備考 この用紙は、日本工業規格 A 列 4 番とすること。医療機関名は記入しないこと。

パクリタキセル静脈内投与及びカルボプラチン腹腔内投与 併用療法のプロトコール



分類 ① 体細胞の遺伝子診断 (18 技術)

対象技術一覧

	先進医療技術名称		
	番号	22年3月以前	新技術名
神経内科関係	13	筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断
	21	ミトコンドリア病のDNA診断 (高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。)	ミトコンドリア病の遺伝子診断
	23	神経変性疾患のDNA診断 (ハンチントン舞踏病、脊髄小脳変性症、球脊髄性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリード症候群その他の神経変性疾患に係るものに限る。)	神経変性疾患の遺伝子診断
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断
	18	成長障害のDNA診断 (特発性低身長症に係るものに限る。)	成長障害の遺伝子診断
小児科関係	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断 (ウィルソン病、メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。)	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断
	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断 (フェニルケトン尿症、高フェニルアラニン血症又はビオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損症に係るものに限る。)	フェニルケトン尿症の遺伝子診断
皮膚科関係	42	ケラチン病の遺伝子診断 (水疱型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水疱症その他の遺伝子異常に係るものに限る。)	ケラチン病の遺伝子診断
	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	色素性乾皮症の遺伝子診断
その他	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断 (アンチトロンビン欠乏症、第VII因子欠乏症、先天性アンチトロンビンIII欠乏症、先天性ヘパリンコファクターII欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。)	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断
	30	重症BCG副反応症例における遺伝子診断 (BCG副反応症例又は非定型抗酸菌感染で重症、反復若しくは難治である場合に係るものに限る。)	重症BCG副反応症例における遺伝子診断

番号	先進医療技術名称		適応症	
	22年3月以前	新技術名		
67	先天性難聴の遺伝子診断 (遺伝性による先天性難聴が疑われるものに係るものに限る。)	先天性難聴の遺伝子診断	先天性難聴	
72	RET遺伝子診断 (甲状腺髄様癌に係るものに限る。)	RET遺伝子診断	甲状腺髄様癌	
73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析 (角膜ジストロフィーと診断された症例に係るものに限る。)	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	角膜ジストロフィー	
82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断 (網膜芽細胞腫患者又は当該患者の血族 (当該患者の疾患が遺伝性疾患である場合に限る。))	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	網膜芽細胞腫の患者又は遺伝性網膜芽細胞腫の患者の血族に係るもの	
先天性代謝異常症	69	培養細胞による先天性代謝異常診断 (先天性代謝異常 (ライソゾーム病に限る。)に罹患する可能性の高い胎児若しくは新生児又は先天性代謝異常 (ライソゾーム病に限る。)が疑われる小児に係るものであって、酵素補充療法による治療が出来ないものに限る。)	培養細胞によるライソゾーム病の診断	ライソゾーム病 (ムコ多糖症I型及びII型、ゴーシェ病、ファブリ病並びにポンペ病を除く。)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症

I. 実施責任医師の要件

I-01 診療科 (医師)

	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	内科、神経内科又は小児科	神経内科又は小児科
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	内科、神経内科又は小児科	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	内科、神経内科又は小児科	神経内科又は小児科
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	内科、精神科又は神経内科	神経内科又は精神科
小児科	18	成長障害の遺伝子診断	内科又は小児科	(変更なし)
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	内科又は小児科	神経内科又は小児科
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	小児科又は小児外科	(変更なし)
皮膚科	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	小児科	(変更なし)
	42	ケラチン病の遺伝子診断	皮膚科	皮膚科又は小児科
その他	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	皮膚科	皮膚科又は小児科
	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	内科又は小児科	血液内科又は小児科
	30	重症 BCG 副反応症例における遺伝子診断	内科又は小児科	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	耳鼻いんこう科	(変更なし)
	72	RET 遺伝子診断	内科、小児科、外科、小児外科又は耳鼻いんこう科	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	眼科	(変更なし)
代謝	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	眼科	(変更なし)
	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	小児科又は産婦人科	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	小児科又は産婦人科	(変更なし)

I-02 資格

	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
神経内科関係	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	神経内科専門医、小児科専門医又は臨床遺伝専門医	(変更なし)
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	内分泌代謝科専門医、神経内科専門医、小児科専門医又は臨床遺伝専門医	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	神経内科専門医、小児科専門医又は臨床遺伝専門医	(変更なし)
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	神経内科専門医又は臨床遺伝専門医	(変更なし)
小児科関係	18	成長障害の遺伝子診断	内分泌代謝科専門医、小児科専門医又は臨床遺伝専門医	(変更なし)
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	内科専門医、小児科専門医又は臨床遺伝専門医	神経内科専門医、小児科専門医又は臨床遺伝専門医
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	小児科専門医、日本小児外科専門医又は臨床遺伝専門医	(変更なし)
	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	小児科専門医又は臨床遺伝専門医	(変更なし)
皮膚科関係	42	ケラチン病の遺伝子診断	皮膚科専門医又は臨床遺伝専門医	皮膚科専門医、小児科専門医又は臨床遺伝専門医
	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	皮膚科専門医又は臨床遺伝専門医	皮膚科専門医、小児科専門医又は臨床遺伝専門医
その他	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	血液専門医、小児科専門医又は臨床遺伝専門医	(変更なし)
	30	重症 BCG 副反応症例における遺伝子診断	感染症専門医又は臨床遺伝専門医	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	耳鼻咽喉科専門医又は臨床遺伝専門医	(変更なし)
	72	RET 遺伝子診断	総合内科専門医、内分泌代謝科専門医、小児科専門医、外科専門医、小児外科専門医、耳鼻いんこう科専門医又は臨床遺伝専門医	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	眼科専門医又は臨床遺伝専門医	(変更なし)
	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	眼科専門医又は臨床遺伝専門医	(変更なし)
代謝	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	小児科専門医、産婦人科専門医又は臨床遺伝専門医	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	小児科専門医、産婦人科専門医又は臨床遺伝専門医	(変更なし)

分類 ① 体細胞の遺伝子診断 (18 技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

I-03 当該診療科の経験年数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	—	5年以上
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	—	5年以上
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	—	5年以上
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	—	5年以上
小児科関係	18	成長障害の遺伝子診断	—	5年以上
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	5年以上	(変更なし)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	3年以上	5年以上
	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	5年以上	(変更なし)
皮膚科	42	ケラチン病の遺伝子診断	—	5年以上
	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	5年以上	(変更なし)
その他	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	3年以上	5年以上
	30	重症BCG副反応症例における遺伝子診断	5年以上	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	5年以上	(変更なし)
	72	RET遺伝子診断	5年以上	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	5年以上	(変更なし)
	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	5年以上	(変更なし)
代謝	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	5年以上	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	5年以上	(変更なし)

I-04 当該技術の経験年数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	3年以上	1年以上
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	1年以上	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	1年以上	(変更なし)
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	1年以上	(変更なし)
小児科関係	18	成長障害の遺伝子診断	1年以上	(変更なし)
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	1年以上	(変更なし)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	1年以上	(変更なし)
	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	3年以上	1年以上
皮膚科	42	ケラチン病の遺伝子診断	1年以上	(変更なし)
	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	3年以上	1年以上
その他	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	1年以上	(変更なし)
	30	重症BCG副反応症例における遺伝子診断	1年以上	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	3年以上	1年以上
	72	RET遺伝子診断	1年以上	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	1年以上	(変更なし)
	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	1年以上	(変更なし)

代謝	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	3年以上	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	3年以上	(変更なし)

I-05 当該技術の経験症例数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	2例以上	1例以上
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	2例以上	1例以上
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	2例以上	1例以上
小児科	18	成長障害の遺伝子診断	3例以上	1例以上
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
皮膚科	42	ケラチン病の遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	3例以上	1例以上
その他	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
	30	重症BCG副反応症例における遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
	72	RET遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	1例以上	(変更なし)
	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
代謝	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	1例以上	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	1例以上	(変更なし)

I-06 その他 (医師)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	—	(変更なし)
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	—	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	—	(変更なし)
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	—	(変更なし)
小児科	18	成長障害の遺伝子診断	—	(変更なし)
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	—	(変更なし)
	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	—	(変更なし)
皮膚科	42	ケラチン病の遺伝子診断	—	(変更なし)
	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	—	(変更なし)
その他	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	30	重症BCG副反応症例における遺伝子診断	—	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	—	(変更なし)
	72	RET遺伝子診断	—	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	—	(変更なし)
	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	—	(変更なし)
代謝	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	—	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	—	(変更なし)

分類 ① 体細胞の遺伝子診断 (18技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II. 医療機関の要件

II-01 診療科 (医療機関)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	内科、神経内科又は小児科	(変更なし)
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	内科、神経内科又は小児科	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	内科、神経内科又は小児科	神経内科又は小児科
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	内科、精神科又は神経内科	神経内科又は精神科
小児科関係	18	成長障害の遺伝子診断	内科又は小児科	(変更なし)
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	内科又は小児科	神経内科又は小児科
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	小児科又は小児外科	(変更なし)
皮膚科	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	小児科	(変更なし)
	42	ケラチン病の遺伝子診断	皮膚科	皮膚科又は小児科
その他	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	皮膚科	皮膚科又は小児科
	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	内科又は小児科	血液内科又は小児科
	30	重症BCG副反応症例における遺伝子診断	内科又は小児科	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	耳鼻いんこう科	(変更なし)
	72	RET遺伝子診断	内科、小児科、外科、小児外科又は耳鼻いんこう科	(変更なし)
代謝	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	眼科	(変更なし)
	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	眼科及び小児科	(変更なし)
代謝	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	小児科又は産婦人科	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	小児科	小児科又は産婦人科

II-02 実施診療科の医師数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	常勤医師2名以上	(変更なし)
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	常勤医師2名以上	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	常勤医師2名以上	(変更なし)
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	常勤医師2名以上	(変更なし)
小児科	18	成長障害の遺伝子診断	常勤医師2名以上	常勤医師1名以上
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	常勤医師1名以上	(変更なし)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	常勤医師1名以上	(変更なし)
皮膚科	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	常勤医師1名以上	(変更なし)
	42	ケラチン病の遺伝子診断	常勤医師2名以上	(変更なし)
その他	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	常勤医師2名以上	(変更なし)
	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	常勤医師1名以上	(変更なし)
	30	重症BCG副反応症例における遺伝子診断	常勤医師1名以上	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	常勤医師2名以上	(変更なし)
	72	RET遺伝子診断	常勤医師1名以上	(変更なし)
代謝	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	常勤医師1名以上	(変更なし)
	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	常勤医師1名以上	(変更なし)
代謝	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	常勤医師1名以上	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	常勤医師1名以上	(変更なし)

II-03 他診療科の医師数

診療科	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	—	(変更なし)
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	—	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	—	(変更なし)
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	—	(変更なし)
小児科	18	成長障害の遺伝子診断	—	(変更なし)
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	—	(変更なし)
皮膚科	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	42	ケラチン病の遺伝子診断	—	(変更なし)
その他	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	—	(変更なし)
	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	30	重症BCG副反応症例における遺伝子診断	—	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	—	(変更なし)
	72	RET遺伝子診断	—	(変更なし)
代謝	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	—	(変更なし)
	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	臨床遺伝専門医1名以上	(変更なし)
代謝	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	—	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	—	(変更なし)

分類 ① 体細胞の遺伝子診断 (18 技術)

II-04 その他医療従事者の配置

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	—	臨床検査技師 1 名以上
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	—	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	臨床検査技師 1 名以上	(変更なし)
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	臨床検査技師 1 名以上	(変更なし)
小児科関係	18	成長障害の遺伝子診断	臨床検査技師 1 名以上	(変更なし)
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	臨床検査技師 1 名以上	(変更なし)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	臨床検査技師 1 名以上	(変更なし)
	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	臨床検査技師 1 名以上	(変更なし)
皮膚科	42	ケラチン病の遺伝子診断	—	臨床検査技師 1 名以上
	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	臨床検査技師 1 名以上	(変更なし)
その他	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	臨床検査技師 1 名以上	(変更なし)
	30	重症 BCG 副反応症例における遺伝子診断	臨床検査技師 1 名以上	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	臨床検査技師 1 名以上	(変更なし)
	72	RET 遺伝子診断	臨床検査技師 1 名以上	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	臨床検査技師 1 名以上	(変更なし)
	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	臨床検査技師 1 名以上	(変更なし)
代謝	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	臨床検査技師 1 名以上	臨床検査技師 1 名以上、専任の細胞を培養する者 1 名以上
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	臨床検査技師 1 名以上	臨床検査技師 1 名以上、専任の細胞を培養する者 1 名以上

II-05 病床数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	—	(変更なし)
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	—	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	—	(変更なし)
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	—	(変更なし)
小児科	18	成長障害の遺伝子診断	—	(変更なし)
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	—	(変更なし)
	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	—	(変更なし)
皮膚科	42	ケラチン病の遺伝子診断	—	(変更なし)
	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	—	(変更なし)
その他	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	30	重症 BCG 副反応症例における遺伝子診断	—	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	—	(変更なし)
	72	RET 遺伝子診断	—	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	—	(変更なし)
	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	—	(変更なし)
代謝	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	—	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	—	(変更なし)

II-06 看護配置

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	—	(変更なし)
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	—	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	—	(変更なし)
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	—	(変更なし)
小児科関係	18	成長障害の遺伝子診断	—	(変更なし)
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	—	(変更なし)
	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	—	(変更なし)
皮膚科	42	ケラチン病の遺伝子診断	—	(変更なし)
	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	—	(変更なし)
その他	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	30	重症 BCG 副反応症例における遺伝子診断	—	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	—	(変更なし)
	72	RET 遺伝子診断	—	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	—	(変更なし)
	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	—	(変更なし)
代謝	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	—	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	—	(変更なし)

II-07 当直体制

診療科	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	—	(変更なし)
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	—	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	—	(変更なし)
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	—	(変更なし)
小児科関係	18	成長障害の遺伝子診断	—	(変更なし)
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	—	(変更なし)
	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	—	(変更なし)
皮膚科	42	ケラチン病の遺伝子診断	—	(変更なし)
	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	—	(変更なし)
その他	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	30	重症 BCG 副反応症例における遺伝子診断	—	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	—	(変更なし)
	72	RET 遺伝子診断	—	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	—	(変更なし)
	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	—	(変更なし)
代謝	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	—	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	—	(変更なし)

分類 ① 体細胞の遺伝子診断 (18技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II-08 緊急手術の実施体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	—	(変更なし)
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	—	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	—	(変更なし)
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	—	(変更なし)
小児科関係	18	成長障害の遺伝子診断	—	(変更なし)
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	—	(変更なし)
皮膚科	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	42	ケラチン病の遺伝子診断	—	(変更なし)
その他	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	—	(変更なし)
	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	30	重症BCG副反応症例における遺伝子診断	—	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	—	(変更なし)
	72	RET遺伝子診断	—	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	—	(変更なし)
代謝	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	—	(変更なし)
	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	—	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	—	(変更なし)

II-10 他の医療機関との連携体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	—	(変更なし)
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	—	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	—	(変更なし)
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	—	(変更なし)
小児科関係	18	成長障害の遺伝子診断	—	(変更なし)
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	—	(変更なし)
皮膚科	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	42	ケラチン病の遺伝子診断	—	(変更なし)
その他	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	—	(変更なし)
	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	30	重症BCG副反応症例における遺伝子診断	—	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	—	(変更なし)
	72	RET遺伝子診断	—	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	—	(変更なし)
代謝	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	—	(変更なし)
	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	—	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	—	(変更なし)

II-09 院内検査 (24時間実施体制)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	要	(削除)
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	要	(削除)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	要	(削除)
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	要	(削除)
小児科関係	18	成長障害の遺伝子診断	要	(削除)
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	要	(削除)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	要	(削除)
皮膚科	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	要	(削除)
	42	ケラチン病の遺伝子診断	要	(削除)
その他	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	要	(削除)
	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	要	(削除)
	30	重症BCG副反応症例における遺伝子診断	要	(削除)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	要	(削除)
	72	RET遺伝子診断	—	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	要	(削除)
代謝	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	—	(変更なし)
	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	要	(削除)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	要	(削除)

II-11 医療機器の保守管理体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	要	(変更なし)
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	要	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	要	(変更なし)
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	要	(変更なし)
小児科関係	18	成長障害の遺伝子診断	要	(変更なし)
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	要	(変更なし)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	要	(変更なし)
皮膚科	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	要	(変更なし)
	42	ケラチン病の遺伝子診断	要	(変更なし)
その他	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	要	(変更なし)
	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	要	(変更なし)
	30	重症BCG副反応症例における遺伝子診断	要	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	要	(変更なし)
	72	RET遺伝子診断	要	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	要	(変更なし)
代謝	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	要	(変更なし)
	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	要	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	要	(変更なし)

分類 ① 体細胞の遺伝子診断 (18 技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II-12 倫理委員会による審査体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催、必要なときは必ず事前に開催)	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)
小児科関係	18	成長障害の遺伝子診断	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	要 (必要なときは必ず事前に開催)	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
皮膚科	42	ケラチン病の遺伝子診断	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
その他	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	30	重症BCG副反応症例における遺伝子診断	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	72	RET遺伝子診断	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
代謝	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)

II-13 医療安全管理委員会の設置

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	要	(変更なし)
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	要	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	要	(変更なし)
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	要	(変更なし)
小児科関係	18	成長障害の遺伝子診断	要	(変更なし)
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	要	(変更なし)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	要	(変更なし)
皮膚科	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	要	(変更なし)
	42	ケラチン病の遺伝子診断	要	(変更なし)
その他	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	要	(変更なし)
	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	要	(変更なし)
	30	重症BCG副反応症例における遺伝子診断	要	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	要	(変更なし)
	72	RET遺伝子診断	要	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	要	(変更なし)
	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	要	(変更なし)
	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	要	(変更なし)
代謝	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	要	(変更なし)

II-14 当該技術の実施症例数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	2例以上	1例以上
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	2例以上	1例以上
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	2例以上	1例以上
小児科関係	18	成長障害の遺伝子診断	3例以上	1例以上
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
皮膚科	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
	42	ケラチン病の遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
その他	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	3例以上	1例以上
	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
	30	重症BCG副反応症例における遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
	72	RET遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	1例以上	(変更なし)
代謝	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	1例以上	(変更なし)
	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	1例以上	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	1例以上	(変更なし)

分類 ① 体細胞の遺伝子診断 (18 技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II-15 その他 (医療機関)

番号	先進医療新技術名	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
神経内科	13 筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	遺伝カウンセリングの実施体制を有していること	・遺伝カウンセリングの実施体制を有していること、 ・神経疾患の遺伝子診断ガイドライン 2009 に準拠していること。 ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
	21 ミトコンドリア病の遺伝子診断	遺伝カウンセリングの実施体制を有していること	・遺伝カウンセリングの実施体制を有していること、 ・神経疾患の遺伝子診断ガイドライン 2009 に準拠していること。 ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
	23 神経変性疾患の遺伝子診断	遺伝カウンセリングの実施体制を有していること	・遺伝カウンセリングの実施体制を有していること、 ・神経疾患の遺伝子診断ガイドライン 2009 に準拠していること。 ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
	37 家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	遺伝カウンセリングの実施体制を有していること	・遺伝カウンセリングの実施体制を有していること、 ・神経疾患の遺伝子診断ガイドライン 2009 に準拠していること。 ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
小児科関係	18 成長障害の遺伝子診断	遺伝カウンセリングの実施体制を有していること	・遺伝カウンセリングの実施体制を有していること、 ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
	48 先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	遺伝カウンセリングの実施体制を有していること	・遺伝カウンセリングの実施体制を有していること、 ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
	55 先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	遺伝カウンセリングの実施体制を有していること	・遺伝カウンセリングの実施体制を有していること、 ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
	68 フェニルケトン尿症の遺伝子診断	遺伝カウンセリングの実施体制を有していること	・遺伝カウンセリングの実施体制を有していること、 ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
皮膚科	42 ケラチン病の遺伝子診断	遺伝カウンセリングの実施体制を有していること	・遺伝カウンセリングの実施体制を有していること、 ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
	54 色素性乾皮症に係る遺伝子診断	遺伝カウンセリングの実施体制を有していること	・遺伝カウンセリングの実施体制を有していること、 ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
その他	12 先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	遺伝カウンセリングの実施体制を有していること	・遺伝カウンセリングの実施体制を有していること、 ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
	30 重症 BCG 副反応症例における遺伝子診断	遺伝カウンセリングの実施体制を有していること	・遺伝カウンセリングの実施体制を有していること、 ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
	67 先天性難聴の遺伝子診断	遺伝カウンセリングの実施体制を有していること	・遺伝カウンセリングの実施体制を有していること、 ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること

番号	先進医療新技術名	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
72	RET 遺伝子診断	遺伝カウンセリングの実施体制を有していること	・遺伝カウンセリングの実施体制を有していること、 ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	遺伝カウンセリングの実施体制を有していること	(変更なし)
82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	遺伝カウンセリングの実施体制を有していること、特定非営利活動法人日本臨床検査標準協議会が平成 21 年 2 月に作成した遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること	・遺伝カウンセリングの実施体制を有していること、 ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
代謝	69 培養細胞によるライソゾーム病の診断	遺伝カウンセリングの実施体制を有していること	・院内で細胞培養を実施していること ・遺伝カウンセリングの実施体制を有していること
	71 培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	遺伝カウンセリングの実施体制を有していること	・院内で細胞培養を実施していること ・遺伝カウンセリングの実施体制を有していること

分類	① 体細胞の遺伝子診断 (18 技術)
----	---------------------

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

Ⅲ. その他の要件

Ⅲ-01 頻回の実績報告

	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	—	(変更なし)
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	—	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	—	(変更なし)
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	—	(変更なし)
小児科	18	成長障害の遺伝子診断	—	(変更なし)
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	—	(変更なし)
	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	—	(変更なし)
皮膚科	42	ケラチン病の遺伝子診断	—	(変更なし)
	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	—	(変更なし)
その他	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	30	重症 B C G 副反応症例における遺伝子診断	—	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	—	(変更なし)
	72	R E T 遺伝子診断	—	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	—	(変更なし)
	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	1 2 月間は、1 月毎の報告	(変更なし)
代謝	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	—	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	—	(変更なし)

Ⅲ-02 その他

	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
神経内科	13	筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	—	(変更なし)
	21	ミトコンドリア病の遺伝子診断	—	(変更なし)
	23	神経変性疾患の遺伝子診断	—	(変更なし)
	37	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	—	(変更なし)
小児科関係	18	成長障害の遺伝子診断	—	(変更なし)
	48	先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	55	先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	—	(変更なし)
	68	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	—	(変更なし)
皮膚科	42	ケラチン病の遺伝子診断	—	(変更なし)
	54	色素性乾皮症に係る遺伝子診断	—	(変更なし)
その他	12	先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	—	(変更なし)
	30	重症 B C G 副反応症例における遺伝子診断	—	(変更なし)
	67	先天性難聴の遺伝子診断	—	(変更なし)
	72	R E T 遺伝子診断	—	(変更なし)
	73	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	—	(変更なし)
	82	網膜芽細胞腫の遺伝子診断	—	(変更なし)
代謝	69	培養細胞によるライソゾーム病の診断	—	(変更なし)
	71	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	—	(変更なし)

対象技術一覧

番号	先進医療技術名		適応症
	22年3月以前	新技術名	
悪性腫瘍薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定(白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。)	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定 白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫
	14	SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	抗悪性腫瘍剤感受性検査(SDI法) 消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がん
	16	HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん(根治度Cの胃がんを除く。)、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものであって、保険医療機関が自らその全部を実施するものに限る。)	抗悪性腫瘍剤感受性検査(HDRA法又はCD-DST法) 消化器がん(根治度Cの胃がんを除く。)、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がん
	34	悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査 悪性脳腫瘍
悪性腫瘍遺伝子検査	28	神経芽腫のRNA診断	神経芽腫の遺伝子検査 神経芽腫
	33	低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断(マンツル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。)	マンツル細胞リンパ腫の遺伝子検査 マンツル細胞リンパ腫
	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査 隆起性皮膚線維肉腫
感染症病原体検査	35	Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断(急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。)	Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査 Q熱が強く疑われるもの
	64	リアルタイムPCRを用いた迅速診断(EBウイルス感染症に係るものに限る。)	EBウイルス感染症迅速診断(リアルタイムPCR法) EBウイルス感染症(免疫不全のため他の方法による鑑別診断が困難なものに限る。)
	81	リアルタイムPCRを用いた迅速診断(単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症に係るものであって、免疫不全のため他の方法による鑑別診断が困難なものに限る。)	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症迅速診断(リアルタイムPCR法) 単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症(免疫不全のため他の方法による鑑別診断が困難なものに限る。)

I. 実施責任医師の要件

I-01 診療科(医師)

診療科	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
悪性腫瘍薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	内科又は小児科	血液内科又は小児科
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査(SDI法)	内科、呼吸器科、消化器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、脳神経外科、呼吸器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、内科、呼吸器内科、消化器内科、小児科又は腫瘍内科	外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、内科、呼吸器内科、消化器内科、小児科又は腫瘍内科
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査(HDRA法又はCD-DST法)	内科、呼吸器科、消化器科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科又は耳鼻いんこう科	外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、内科、呼吸器内科、消化器内科、小児科又は腫瘍内科
	34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	脳神経外科	(変更なし)
遺伝子検査	28	神経芽腫の遺伝子検査	小児科又は小児外科	(変更なし)
	33	マンツル細胞リンパ腫の遺伝子検査	内科又は小児科	血液内科
	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	皮膚科	(変更なし)
感染症病原体検査	35	Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	内科又は小児科	(変更なし)
	64	EBウイルス感染症迅速診断(リアルタイムPCR法)	内科、小児科、外科、小児外科又は泌尿器科	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症迅速診断(リアルタイムPCR法)	皮膚科	(変更なし)

分類 ② 癌組織・病原体の診断 (10 技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

I-02 資格

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	血液専門医	(変更なし)
14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI法)	内科専門医、呼吸器専門医、消化器病専門医、小児科専門医、外科専門医、整形外科専門医、脳神経外科専門医、呼吸器外科専門医、小児外科専門医、皮膚科専門医、泌尿器科専門医、産婦人科専門医、眼科専門医又は耳鼻咽喉科専門医	外科専門医、整形外科専門医、脳神経外科専門医、呼吸器外科専門医、小児外科専門医、皮膚科専門医、泌尿器科専門医、産婦人科専門医、眼科専門医又は耳鼻咽喉科専門医
16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA法又はCD-DST法)	内科専門医、呼吸器専門医、消化器病専門医、小児科専門医、外科専門医、整形外科専門医、脳神経外科専門医、呼吸器外科専門医、小児外科専門医、皮膚科専門医、泌尿器科専門医、産婦人科専門医、眼科専門医又は耳鼻咽喉科専門医	外科専門医、整形外科専門医、脳神経外科専門医、呼吸器外科専門医、小児外科専門医、皮膚科専門医、泌尿器科専門医、産婦人科専門医、眼科専門医又は耳鼻咽喉科専門医
34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	脳神経外科専門医	(変更なし)
28	神経芽腫の遺伝子検査	小児科専門医又は小児外科専門医	(変更なし)
33	マントル細胞リンパ腫の遺伝子検査	血液専門医	(変更なし)
43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	皮膚科専門医	(変更なし)
35	Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	感染症専門医	(変更なし)
64	EBウイルス感染症迅速診断 (リアルタイムPCR法)	内科専門医、小児科専門医、外科専門医、小児外科専門医又は泌尿器科専門医	総合内科専門医、小児科専門医、外科専門医、小児外科専門医又は泌尿器科専門医
81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断 (リアルタイムPCR法)	皮膚科専門医	(変更なし)

I-03 当該診療科の経験年数

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	3年以上	(変更なし)
14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI法)	5年以上	(変更なし)
16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA法又はCD-DST法)	5年以上	(変更なし)
34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	—	5年以上
28	神経芽腫の遺伝子検査	—	5年以上
33	マントル細胞リンパ腫の遺伝子検査	3年以上	(変更なし)
43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	—	5年以上
35	Q熱における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	5年以上	(変更なし)
64	EBウイルス感染症迅速診断 (リアルタイムPCR法)	3年以上	(変更なし)
81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断 (リアルタイムPCR法)	5年以上	(変更なし)

I-04 当該技術の経験年数

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	1年以上	(変更なし)
14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI法)	1年以上	(変更なし)
16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA法又はCD-DST法)	1年以上	(変更なし)
34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	3年以上	1年以上
28	神経芽腫の遺伝子検査	3年以上	1年以上
33	マントル細胞リンパ腫の遺伝子検査	1年以上	(変更なし)
43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	3年以上	1年以上
35	Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	1年以上	(変更なし)
64	EBウイルス感染症迅速診断 (リアルタイムPCR法)	1年以上	(変更なし)
81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断 (リアルタイムPCR法)	1年以上	(変更なし)

分類 ② 癌組織・病原体の診断 (10 技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

I-05 当該技術の経験症例数

	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物 P 糖蛋白の測定	1 例以上	(変更なし)
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI 法)	5 例以上	3 例以上
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA 法又は CD-DST 法)	5 例以上	3 例以上
遺伝子検査	34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	3 例以上	(変更なし)
	28	神経芽腫の遺伝子検査	3 例以上	(変更なし)
	33	マンツル細胞リンパ腫の遺伝子検査	1 例以上	(変更なし)
感染症病原体検査	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	3 例以上	(変更なし)
	35	Q 熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	1 例以上	(変更なし)
	64	EB ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	1 例以上	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	1 例以上	(変更なし)

I-06 その他 (医師)

	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物 P 糖蛋白の測定	—	(変更なし)
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI 法)	—	(変更なし)
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA 法又は CD-DST 法)	—	(変更なし)
遺伝子検査	34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	—	(変更なし)
	28	神経芽腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
	33	マンツル細胞リンパ腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
感染症病原体検査	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
	35	Q 熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	—	(変更なし)
	64	EB ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	—	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	—	(変更なし)

II. 医療機関の要件

II-01 診療科 (医療機関)

	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物 P 糖蛋白の測定	内科又は小児科	血液内科又は小児科
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI 法)	内科、呼吸器科、消化器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、内科、呼吸器内科、消化器内科、小児科又は腫瘍内科	外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、内科、呼吸器内科、消化器内科、小児科又は腫瘍内科
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA 法又は CD-DST 法)	内科、呼吸器科、消化器科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科又は耳鼻いんこう科	外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、内科、呼吸器内科、消化器内科、小児科又は腫瘍内科
遺伝子検査	34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	脳神経外科	(変更なし)
	28	神経芽腫の遺伝子検査	小児科又は小児外科	(変更なし)
	33	マンツル細胞リンパ腫の遺伝子検査	内科又は小児科	血液内科
	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	皮膚科	(変更なし)
感染症病原体検査	35	Q 熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	内科又は小児科	(変更なし)
	64	EB ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	内科、小児科、外科、小児外科又は泌尿器科	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	皮膚科	(変更なし)

II-02 実施診療科の医師数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物 P 糖蛋白の測定	常勤医師 1 名以上	(変更なし)
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI 法)	常勤医師 2 名以上	(変更なし)
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA 法又は CD-DST 法)	常勤医師 2 名以上	(変更なし)
遺伝子検査	34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	常勤医師 2 名以上	(変更なし)
	28	神経芽腫の遺伝子検査	常勤医師 2 名以上	(変更なし)
	33	マンデル細胞リンパ腫の遺伝子検査	常勤医師 1 名以上	(変更なし)
感染症病原体検査	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	常勤医師 2 名以上	(変更なし)
	35	Q 熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	常勤医師 1 名以上	(変更なし)
	64	EB ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	常勤医師 1 名以上	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	常勤医師 1 名以上	(変更なし)

II-03 他診療科の医師数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物 P 糖蛋白の測定	病理医 1 名以上	(変更なし)
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI 法)	病理医 1 名以上	(変更なし)
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA 法又は CD-DST 法)	病理医 1 名以上	(変更なし)
遺伝子検査	34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	病理医 1 名以上	(変更なし)
	28	神経芽腫の遺伝子検査	病理医 1 名以上	(変更なし)
	33	マンデル細胞リンパ腫の遺伝子検査	病理医 1 名以上	(変更なし)
感染症病原体検査	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	—	病理医 1 名以上
	35	Q 熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	—	(変更なし)
	64	EB ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	—	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	—	(変更なし)

II-04 その他医療従事者の配置

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物 P 糖蛋白の測定	臨床検査技師 1 名以上	薬剤師 1 名以上、臨床検査技師 1 名以上
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI 法)	薬剤師 1 名以上、専任の細胞培養を担当する者 1 名以上	(変更なし)
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA 法又は CD-DST 法)	薬剤師 1 名以上、専任の細胞培養を担当する者 1 名以上	(変更なし)
	34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	—	薬剤師 1 名以上、臨床検査技師 1 名以上
遺伝子検査	28	神経芽腫の遺伝子検査	臨床検査技師 1 名以上	(変更なし)
	33	マンデル細胞リンパ腫の遺伝子検査	臨床検査技師 1 名以上	(変更なし)
	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	—	臨床検査技師 1 名以上
感染症病原体検査	35	Q 熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	臨床検査技師 1 名以上	(変更なし)
	64	EB ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	臨床検査技師 1 名以上	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	臨床検査技師 1 名以上	(変更なし)

II-05 病床数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物 P 糖蛋白の測定	—	(変更なし)
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI 法)	—	(変更なし)
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA 法又は CD-DST 法)	—	(変更なし)
遺伝子検査	34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	—	(変更なし)
	28	神経芽腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
	33	マンデル細胞リンパ腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
病原体検査	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
	35	Q 熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	—	(変更なし)
	64	EB ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	—	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	—	(変更なし)

分類 ② 癌組織・病原体の診断 (10技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II-06 看護配置

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	—	(変更なし)
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI法)	—	(変更なし)
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA法又はCD-DST法)	—	(変更なし)
		34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	—
遺伝子検査	28	神経芽腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
	33	マントル細胞リンパ腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
感染症病原体検査	35	Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	—	(変更なし)
	64	EBウイルス感染症迅速診断 (リアルタイムPCR法)	—	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断 (リアルタイムPCR法)	—	(変更なし)

II-08 緊急手術の実施体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	—	(変更なし)
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI法)	要	(削除)
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA法又はCD-DST法)	要	(削除)
		34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	要
遺伝子検査	28	神経芽腫の遺伝子検査	要	(削除)
	33	マントル細胞リンパ腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
病原体検査	35	Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	—	(変更なし)
	64	EBウイルス感染症迅速診断 (リアルタイムPCR法)	—	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断 (リアルタイムPCR法)	—	(変更なし)

II-07 当直体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	—	(変更なし)
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI法)	要	(削除)
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA法又はCD-DST法)	要	(削除)
		34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	要
遺伝子検査	28	神経芽腫の遺伝子検査	要	(削除)
	33	マントル細胞リンパ腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
感染症病原体検査	35	Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	—	(変更なし)
	64	EBウイルス感染症迅速診断 (リアルタイムPCR法)	—	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断 (リアルタイムPCR法)	—	(変更なし)

II-09 院内検査 (24時間実施体制)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	要	(削除)
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI法)	要	(削除)
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA法又はCD-DST法)	要	(削除)
		34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	要
遺伝子検査	28	神経芽腫の遺伝子検査	要	(削除)
	33	マントル細胞リンパ腫の遺伝子検査	要	(削除)
	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	要	(削除)
病原体検査	35	Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	要	(削除)
	64	EBウイルス感染症迅速診断 (リアルタイムPCR法)	要	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断 (リアルタイムPCR法)	要	(変更なし)

分類 ② 癌組織・病原体の診断 (10 技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II-10 他の医療機関との連携体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	—	(変更なし)
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI法)	—	(変更なし)
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA法又はCD-DST法)	—	(変更なし)
	34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	—	(変更なし)
遺伝子検査	28	神経芽腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
	33	マンツル細胞リンパ腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
感染症病原体検査	35	Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	—	(変更なし)
	64	EBウイルス感染症迅速診断 (リアルタイムPCR法)	—	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイムPCR法)	—	(変更なし)

II-11 医療機器の保守管理体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	要	(変更なし)
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI法)	要	(変更なし)
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA法又はCD-DST法)	要	(変更なし)
	34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	要	(変更なし)
遺伝子検査	28	神経芽腫の遺伝子検査	要	(変更なし)
	33	マンツル細胞リンパ腫の遺伝子検査	要	(変更なし)
	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	要	(変更なし)
病原体検査	35	Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	要	(変更なし)
	64	EBウイルス感染症迅速診断 (リアルタイムPCR法)	要	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイムPCR法)	要	(変更なし)

II-12 倫理委員会による審査体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	—	(変更なし)
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI法)	—	(変更なし)
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA法又はCD-DST法)	—	(変更なし)
	34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(削除)
遺伝子検査	28	神経芽腫の遺伝子検査	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(削除)
	33	マンツル細胞リンパ腫の遺伝子検査	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(削除)
	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(削除)
感染症病原体検査	35	Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	—	(変更なし)
	64	EBウイルス感染症迅速診断 (リアルタイムPCR法)	—	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイムPCR法)	—	(変更なし)

II-13 医療安全管理委員会の設置

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	要	(変更なし)
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI法)	要	(変更なし)
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA法又はCD-DST法)	要	(変更なし)
	34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	要	(変更なし)
遺伝子検査	28	神経芽腫の遺伝子検査	要	(変更なし)
	33	マンツル細胞リンパ腫の遺伝子検査	要	(変更なし)
	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	要	(変更なし)
感染症病原体検査	35	Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	要	(変更なし)
	64	EBウイルス感染症迅速診断 (リアルタイムPCR法)	要	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイムPCR法)	—	要

II-14 当該技術の実施症例数

	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物 P 糖蛋白の測定	1 例以上	(変更なし)
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI 法)	5 例以上	3 例以上
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA 法又は CD-DST 法)	5 例以上	3 例以上
	34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	3 例以上	(変更なし)
遺伝子検査	28	神経芽腫の遺伝子検査	3 例以上	(変更なし)
	33	マントル細胞リンパ腫の遺伝子検査	1 例以上	(変更なし)
	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	3 例以上	(変更なし)
感染症病原体検査	35	Q 熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	1 例以上	(変更なし)
	64	EB ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	1 例以上	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	1 例以上	(変更なし)

II-15 その他 (医療機関)

	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物 P 糖蛋白の測定	病理部門が設置されていること	(変更なし)
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI 法)	病理部門が設置されていること、院内で細胞培養を実施していること	(変更なし)
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA 法又は CD-DST 法)	病理部門が設置されていること、院内で細胞培養を実施していること	(変更なし)
	34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	病理部門が設置されていること	・病理部門が設置されていること ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
遺伝子検査	28	神経芽腫の遺伝子検査	病理部門が設置されていること	・病理部門が設置されていること ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
	33	マントル細胞リンパ腫の遺伝子検査	病理部門が設置されていること	・病理部門が設置されていること ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	—	・病理部門が設置されていること ・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
感染症病原体検査	35	Q 熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	—	・遺伝子関連検査検体品質管理マニュアルに従って検体の品質管理が行われていること
	64	EB ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	—	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	—	(変更なし)

Ⅲ. その他の要件
Ⅲ-01 頻回の実績報告

	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物 P 糖蛋白の測定	—	(変更なし)
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI 法)	—	(変更なし)
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA 法又は CD-DST 法)	—	(変更なし)
	34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	—	(変更なし)
遺伝子検査	28	神経芽腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
	33	マンツル細胞リンパ腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
感染症病原体検査	35	Q 熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	—	(変更なし)
	64	EB ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	—	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	—	(変更なし)

Ⅲ-02 その他

	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
薬剤感受性検査	9	造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物 P 糖蛋白の測定	—	(変更なし)
	14	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (SDI 法)	—	(変更なし)
	16	抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA 法又は CD-DST 法)	—	(変更なし)
	34	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	—	(変更なし)
遺伝子検査	28	神経芽腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
	33	マンツル細胞リンパ腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
	43	隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	—	(変更なし)
感染症病原体検査	35	Q 熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子検査	—	(変更なし)
	64	EB ウイルス感染症迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	—	(変更なし)
	81	単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断 (リアルタイム PCR 法)	—	(変更なし)

分類 ③ その他の診断技術 (8技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

対象技術一覧

番号	先進医療技術名称		適応症
	22年3月以前	新技術名	
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査 (肺腫瘍に係るものに限る。)	CTガイド下気管支鏡検査 肺腫瘍
	27	31 磷-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断 (糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。)	31 磷-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断 糖尿病性足病変
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法 (肺がん又は気管支前がん病変に係るものに限る。)	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法 肺がん又は気管支前がん病変
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価 (骨粗鬆症、骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍掻爬術後若しくは骨髄炎掻爬術後の症状に係るものに限る。)	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価 骨粗鬆症、骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍掻爬術後のもの
	10	スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法 (手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に係るものに限る。)	悪性高熱症診断法 (スキンドファイバー法) 悪性高熱症が強く疑われるもの (手術が予定されている場合に限る。)
その他	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラレーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法 (ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。)	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラレーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法 ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助 (ICD-10 (統計法第二十八条及び附則第三条の規定に基づき、疾病、傷害及び死因に関する分類の名称及び分類表を定める件 (平成二十一年総務省告示第百七十六号) の「(1) 疾病、傷害及び死因の統計分類基本分類表」に規定する分類をいう。) において F2 (統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害) に分類される疾病及び F3 (気分 (感情) 障害) に分類される疾病のいずれかの疾病の患者であることが強く疑われるうつ症状の者 (器質的疾患に起因するうつ症状の者を除く。)) に係るものに限る。)	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助 ICD-10 (平成二十一年総務省告示第百七十六号 (統計法第二十八条及び附則第三条の規定に基づき、疾病、傷害及び死因に関する分類の名称及び分類表を定める件) の「3」の「(1) 疾病、傷害及び死因の統計分類基本分類表」に規定する分類をいう。) において F2 (統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害) に分類される疾病及び F3 (気分 (感情) 障害) に分類される疾病のいずれかの疾病の患者であることが強く疑われるうつ症状の者 (器質的疾患に起因するものを除く。)

番号	先進医療技術名称		適応症
	22年3月以前	新技術名	
80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査 (閉塞性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる症状 (習慣性がある激しいいびき、日中の傾眠等をいう。)) 及び所見 (肥満、薬物療法に対して抵抗性を有する高血圧等をいう。)) が認められる者又は中枢性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる慢性心不全の者に係るものに限る。)	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	閉塞性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる症状 (習慣性がある激しいいびき、日中の傾眠等をいう。)) 及び所見 (肥満、薬物療法に対して抵抗性を有する高血圧等をいう。)) が認められるもの又は中枢性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる慢性心不全

I. 実施責任医師の要件

I-01 診療科 (医師)

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	内科、呼吸器科又は外科 呼吸器内科又は呼吸器外科
	27	31 磷-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	内科又は放射線科 (変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	呼吸器科 呼吸器内科又は呼吸器外科
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	整形外科 (変更なし)
	10	悪性高熱症診断法 (スキンドファイバー法)	麻酔科 (変更なし)
その他	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラレーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	消化器科 消化器内科又は消化器外科
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	精神科又は心療内科 (変更なし)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	呼吸器内科、循環器内科、神経内科、耳鼻いんこう科又は精神科 (変更なし)

分類 ③ その他の診断技術 (8技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類比較)

I-02 資格

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	呼吸器専門医又は気管支鏡専門医	(変更なし)
	27	31 燐・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	糖尿病専門医又は放射線科専門医	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	気管支鏡専門医	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	整形外科専門医	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法(スキンドファイバー法)	麻酔科専門医	(変更なし)
	50	CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	消化器病専門医	(変更なし)
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	精神保健指定医	(変更なし)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	呼吸器専門医、循環器専門医、神経内科専門医、耳鼻咽喉科専門医又は精神保健指定医	(変更なし)

I-03 当該診療科の経験年数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	—	5年以上
	27	31 燐・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	7年以上	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	5年以上	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	6年以上	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法(スキンドファイバー法)	—	(変更なし)
	50	CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	—	5年以上
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	5年以上	(変更なし)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	—	(変更なし)

I-04 当該技術の経験年数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	5年以上	(変更なし)
	27	31 燐・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	5年以上	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	3年以上	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	1年以上	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法(スキンドファイバー法)	5年以上	(変更なし)
	50	CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	1年以上	(変更なし)
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	1年以上	(変更なし)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	1年以上	(変更なし)

I-05 当該技術の経験症例数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	術者として5例以上	(変更なし)
	27	31 燐・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	術者として5例以上	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	助手又は術者として20例以上、うち術者として10例以上	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	術者として3例以上	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法(スキンドファイバー法)	術者として3例以上	(変更なし)
	50	CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	術者として1例以上	(変更なし)
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	術者として10例以上	術者として5例以上
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	術者として3例以上	(変更なし)

分類	③ その他の診断技術 (8技術)
----	------------------

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

I-06 その他 (医師)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	—	(変更なし)
	27	31 燐・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	—	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	—	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	—	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法 (スキンドファイバー法)	—	(変更なし)
	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテララーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	—	(変更なし)
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	—	(変更なし)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	—	(変更なし)

II-02 実施診療科の医師数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	常勤医師1名以上	(変更なし)
	27	31 燐・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	実施医師が内科の場合は常勤医師2名以上及び放射線科医師1名以上、実施医師が放射線科の場合は常勤医師2名以上	実施医師が内科の場合は常勤医師2名以上及び放射線科医師1名以上、実施医師が放射線科の場合は常勤医師2名以上
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	常勤医師3名以上	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	常勤医師1名以上	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法 (スキンドファイバー法)	常勤医師2名以上	(変更なし)
	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテララーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	消化器病専門医である常勤医師1名以上	常勤医師1名以上
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	精神保健指定医である常勤医師1名以上	神経内科又は脳神経外科常勤医師1名以上
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	常勤医師1名以上	(変更なし)

II. 医療機関の要件

II-01 診療科 (医療機関)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	内科、呼吸器科又は外科並びに放射線科及び麻酔科	呼吸器内科又は呼吸器外科、放射線科及び麻酔科
	27	31 燐・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	内科又は放射線科	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	呼吸器科	呼吸器内科又は呼吸器外科
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	整形外科	整形外科及び放射線科
その他	10	悪性高熱症診断法 (スキンドファイバー法)	麻酔科	(変更なし)
	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテララーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	消化器科	消化器内科又は消化器外科
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	精神科又は心療内科	精神科又は心療内科及び神経内科又は脳神経外科
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	内科、耳鼻いんこう科又は精神科	呼吸器内科、循環器内科、神経内科、耳鼻いんこう科又は精神科

II-03 他診療科の医師数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	放射線科医師1名以上及び麻酔科医師1名以上、病理医1名以上	病理医1名以上
	27	31 燐・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	—	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	—	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	—	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法 (スキンドファイバー法)	—	(変更なし)
	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテララーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	—	(変更なし)
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	神経内科又は脳神経外科常勤医師1名以上	(削除)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	—	(変更なし)

分類 ③ その他の診断技術 (8技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II-04 その他医療従事者の配置

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	診療放射線技師1名以上	(変更なし)
	27	31 膈・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	診療放射線技師1名以上	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	臨床工学技士1名以上	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	—	診療放射線技師1名以上
その他	10	悪性高熱症診断法(スキンドファイバー法)	—	(変更なし)
	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	臨床検査技師1名以上	(変更なし)
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	臨床検査技師1名以上	(変更なし)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	—	(変更なし)

II-06 看護配置

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	—	(変更なし)
	27	31 膈・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	—	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	—	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	—	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法(スキンドファイバー法)	—	(変更なし)
	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	—	(変更なし)
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	—	(変更なし)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	—	(変更なし)

II-05 病床数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	—	(変更なし)
	27	31 膈・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	—	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	1床以上	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	—	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法(スキンドファイバー法)	—	(変更なし)
	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	—	(変更なし)
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	—	(変更なし)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	1床以上	(変更なし)

II-07 当直体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	要	(変更なし)
	27	31 膈・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	—	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	要	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	—	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法(スキンドファイバー法)	要	(変更なし)
	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	—	(変更なし)
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	—	(変更なし)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	—	(変更なし)

分類 ③ その他の診断技術 (8技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II-08 緊急手術の実施体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	要	(変更なし)
	27	31 燐・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	—	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	要	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	—	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法(スキンドファイバー法)	要	(削除)
	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	—	(変更なし)
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	—	(変更なし)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	—	(変更なし)

II-10 他の医療機関との連携体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	—	(変更なし)
	27	31 燐・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	—	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	—	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	—	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法(スキンドファイバー法)	緊急手術において可	(削除)
	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	—	(変更なし)
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	—	(変更なし)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	—	(変更なし)

II-09 院内検査(24時間実施体制)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	要	(変更なし)
	27	31 燐・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	—	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	要	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	—	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法(スキンドファイバー法)	要	(変更なし)
	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	—	(変更なし)
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	—	(変更なし)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	—	(変更なし)

II-11 医療機器の保守管理体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	要	(変更なし)
	27	31 燐・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	要	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	要	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	要	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法(スキンドファイバー法)	要	(変更なし)
	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	要	(変更なし)
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	要	(変更なし)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	要	(変更なし)

分類 ③ その他の診断技術 (8技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II-12 倫理委員会による審査体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	27	31 膈・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	—	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	—	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法 (スキンドファイバー法)	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	—	(変更なし)

II-13 医療安全管理委員会の設置

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	要	(変更なし)
	27	31 膈・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	要	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	要	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	—	要
その他	10	悪性高熱症診断法 (スキンドファイバー法)	要	(変更なし)
	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	要	(変更なし)
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	要	(変更なし)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	—	(変更なし)

II-14 当該技術の実施症例数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	5例以上	(変更なし)
	27	31 膈・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	5例以上	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	30例以上	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	5例以上	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法 (スキンドファイバー法)	3例以上	(変更なし)
	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	10例以上	3例以上
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	10例以上	5例以上
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	3例以上	(変更なし)

II-15 その他 (医療機関)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	病理部門が設置されていること	(変更なし)
	27	31 膈・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	—	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	—	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	—	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法 (スキンドファイバー法)	—	(変更なし)
	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	—	(変更なし)
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	—	(変更なし)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	院内で終夜睡眠ポリグラフィー (携帯用装置を使用するものを除く。) を実施する体制が整備されていること。	(変更なし)

分類	③ その他の診断技術 (8技術)
----	------------------

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

Ⅲ. その他の要件

Ⅲ-01 頻回の実績報告

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	—	(変更なし)
	27	31 磷・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	—	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	—	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	—	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法 (スキンドファイバー法)	—	(変更なし)
	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラ-メイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	—	(変更なし)
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	—	(変更なし)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	—	(変更なし)

Ⅲ-02 その他

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
画像診断技術	11	CTガイド下気管支鏡検査	—	(変更なし)
	27	31 磷・磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	—	(変更なし)
	47	カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	—	(変更なし)
	53	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	—	(変更なし)
その他	10	悪性高熱症診断法 (スキンドファイバー法)	—	(変更なし)
	50	CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラ-メイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	—	(変更なし)
	75	光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	—	(変更なし)
	80	無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査	—	(変更なし)

分類 ④ 体腔鏡手術 (15 技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

対象技術一覧

診療科	番号	先進医療技術名称		適応症
		22年3月以前	新技術名	
消化器外科	32	脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾切除術(インスリノーマ、脾動脈瘤、粘液性嚢胞腫瘍、膵管内腫瘍その他の脾良性腫瘍に係る脾体尾部切除又は核出術に限る。)	腹腔鏡補助下脾体尾部切除又は核出術	脾内分泌系腫瘍その他の脾良性又は低悪性腫瘍
	58	腹腔鏡下直腸固定術(直腸脱に係るものに限る。)	腹腔鏡下直腸固定術	直腸脱
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術(BMI(体重(キログラム)を身長(メートル)の二乗で除して得た数値をいう。))が三十五以上の肥満症に係るものに限る。)	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	BMI(患者の体重をキログラムで表した数値をその者の身長をメートルで表した数値の二乗で除して得た数値をいう。))が35以上の肥満症
血管外科	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切除術(下肢慢性静脈不全症(下腿の広範囲の皮膚に色素沈着、硬化若しくは萎縮が起こり、又は潰瘍を有するとともに、超音波検査により穿通枝の血液が逆流していることが確認され、かつ、従来の外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切除術	下肢慢性静脈不全症(下腿の広範囲の皮膚に色素沈着、硬化若しくは萎縮が起こり、又は潰瘍を有するものであって、超音波検査により穿通枝の血液が逆流していることが確認されるものに限る。)
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術(最大径が十ミリメートル以下であって、石灰化、感染又は瘤化していない動脈管の動脈管開存症に係るものに限る。)	胸腔鏡下動脈管開存症手術	動脈管開存症(最大径が十ミリメートル以下であって、石灰化、感染又は瘤化していない動脈管に係るものに限る。)
	8	経皮的レーザー椎間板減圧術(内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。)	経皮的レーザー椎間板減圧術	椎間板ヘルニア
整形外科	22	鏡視下肩峰下腔除圧術(透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。)	鏡視下肩峰下腔除圧術	肩インピンジメント症候群
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療(腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛(保存治療に抵抗性のものに限る。))に係るものに限る。)	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症又は腰下肢痛(腰椎手術を実施した後のものであって、保存治療に抵抗性を有するものに限る。)

診療科	番号	先進医療技術名称		適応症
		22年3月以前	新技術名	
産婦人科	46	一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術(双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例(妊娠十六週から二十六週に限る。))に係るものに限る。)	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠症例(妊娠16週以上26週以下のものに限る。)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術(手術進行期分類Ib期までの子宮体がんに係るものに限る。)	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	手術進行期分類Ib期までの子宮体がん
泌尿器科	38	膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術(膀胱尿管逆流症(国際分類グレードVの高度逆流症を除く。))に係るものに限る。)	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	膀胱尿管逆流症(国際分類グレードVの高度逆流症を除く。)
	40	泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術(泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例又は画像上リンパ節転移が疑われるものに係るものに限る。)	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	泌尿生殖器腫瘍(リンパ節転移の場合及び画像によりリンパ節転移が疑われる場合に限る。)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術(尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍(精巣がんから転移したものに限る。))又は骨盤リンパ節腫瘍(泌尿器がんから転移したものに限る。))に係るものに限る。)	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍又は後腹膜リンパ節腫瘍(精巣がんから転移したものに限る。))又は骨盤リンパ節腫瘍(泌尿器がんから転移したものに限る。)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術(膀胱尿管逆流症又は巨大尿管症に係るものに限る。)	腹腔鏡下膀胱内手術	膀胱尿管逆流症又は巨大尿管症
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術(浸潤性膀胱がんに係るものに限る。)	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	浸潤性膀胱がん

分類 ④ 体腔鏡手術 (15 技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

I. 実施責任医師の要件

I-01 診療科 (医師)

診療科	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
外科 消化器	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	消化器科又は外科	消化器外科
	58	腹腔鏡下直腸固定術	外科	消化器外科
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	消化器外科	(変更なし)
外科 血管	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	血管外科又は心臓血管外科	(変更なし)
	83	胸腔鏡下動脈管開症手術	心臓血管外科	(変更なし)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	整形外科又は脳神経外科	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	整形外科	(変更なし)
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	整形外科又は麻酔科	(変更なし)
人産科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	小児外科又は産科	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	産婦人科	(変更なし)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	泌尿器科	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	泌尿器科	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	泌尿器科	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	泌尿器科	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	泌尿器科	(変更なし)

I-02 資格

診療科	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
外科 消化器	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	消化器外科専門医	(変更なし)
	58	腹腔鏡下直腸固定術	消化器外科専門医	(変更なし)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	消化器外科専門医	(変更なし)
外科 血管	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	外科専門医	外科専門医又は心臓血管外科専門医
	83	胸腔鏡下動脈管開症手術	心臓血管外科専門医	(変更なし)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	整形外科専門医又は脳神経外科専門医	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	整形外科専門医	(変更なし)
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	整形外科専門医又は麻酔科専門医	麻酔科専門医又は整形外科専門医
人産科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	小児外科専門医又は産婦人科専門医	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	産婦人科専門医	(変更なし)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	泌尿器科専門医	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	泌尿器科専門医	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	泌尿器科専門医	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	泌尿器科専門医	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	泌尿器科専門医	(変更なし)

I-03 当該診療科の経験年数

診療科	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
外科 消化器	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	—	10年以上
	58	腹腔鏡下直腸固定術	10年以上	(変更なし)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	8年以上	10年以上
外科 血管	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	5年以上	(変更なし)
	83	胸腔鏡下動脈管開症手術	10年以上	(変更なし)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	—	5年以上
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	—	5年以上
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	10年以上	(変更なし)
人産科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	—	5年以上
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	5年以上	(変更なし)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	5年以上	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	5年以上	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	5年以上	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	5年以上	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	5年以上	(変更なし)

I-04 当該技術の経験年数

診療科	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
外科 消化器	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	5年以上	(変更なし)
	58	腹腔鏡下直腸固定術	3年以上	2年以上
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	2年以上	(変更なし)
外科 血管	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	1年以上	(変更なし)
	83	胸腔鏡下動脈管開症手術	2年以上	(変更なし)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	5年以上	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	5年以上	3年以上
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	3年以上	(変更なし)
人産科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	5年以上	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	3年以上	(変更なし)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	3年以上	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	3年以上	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	1年以上	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	1年以上	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	2年以上	(変更なし)

分類 ④ 体腔鏡手術 (15 技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

I-05 当該技術の経験症例数

診療科	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
消化器外科	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	助手又は術者として20例以上、うち術者として10例以上	助手又は術者として10例以上、うち術者として5例以上
	58	腹腔鏡下直腸固定術	術者として3例以上	(変更なし)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	助手又は術者として7例以上、うち術者として2例以上	(変更なし)
外科血管	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	術者として5例以上	(変更なし)
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	助手又は術者として15例以上、うち術者として5例以上	術者として10例以上
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	助手又は術者として20例以上、うち術者として10例以上	術者として10例以上
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	助手又は術者として20例以上、うち術者として10例以上	術者として10例以上
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	助手又は術者として20例以上、うち術者として10例以上	術者として10例以上
産婦人科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	助手又は術者として10例以上、うち術者として5例以上	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	術者として5例以上	(変更なし)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	助手又は術者として10例以上、うち術者として5例以上	術者として5例以上
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	助手又は術者として10例以上、うち術者として5例以上	術者として5例以上
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	術者として3例以上	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	術者として3例以上	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	術者として5例以上	(変更なし)

I-06 その他 (医師)

診療科	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
消化器外科	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	-	(変更なし)
	58	腹腔鏡下直腸固定術	-	(変更なし)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	-	(変更なし)
外科血管	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	-	(変更なし)
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	-	(変更なし)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	-	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	-	(変更なし)
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	-	(変更なし)
産婦人科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	-	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	-	(変更なし)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	-	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	-	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	-	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	-	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	-	(変更なし)

II. 医療機関の要件

II-01 診療科 (医療機関)

診療科	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
消化器外科	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	消化器科又は外科、及び麻酔科	消化器外科及び麻酔科
	58	腹腔鏡下直腸固定術	外科及び麻酔科	消化器外科及び麻酔科
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	消化器外科、麻酔科及び内科	(変更なし)
外科血管	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	血管外科又は心臓血管外科	(変更なし)
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	心臓血管外科、麻酔科及び小児科	(変更なし)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	整形外科又は脳神経外科	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	整形外科及び麻酔科	(変更なし)
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	整形外科及び麻酔科	(変更なし)
産婦人科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	実施医師が小児科の場合は小児科、産科及び麻酔科、実施医師が産科の場合は小児科、産科及び麻酔科	小児科、小児科、産科及び麻酔科
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	産婦人科及び麻酔科	(変更なし)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	泌尿器科	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	泌尿器科及び麻酔科	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	泌尿器科	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	泌尿器科	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	泌尿器科	(変更なし)

II-02 実施診療科の医師数

診療科	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
消化器外科	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	常勤医師3名以上	(変更なし)
	58	腹腔鏡下直腸固定術	常勤医師2名以上	(変更なし)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	常勤医師2名以上	(変更なし)
外科血管	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	常勤医師2名以上	常勤医師1名以上
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	常勤医師1名以上	常勤医師2名以上
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	常勤医師3名以上	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	常勤医師3名以上	(変更なし)
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	常勤医師3名以上	(変更なし)
産婦人科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	常勤医師3名以上	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	常勤医師3名以上	常勤医師2名以上
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	常勤医師2名以上	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	常勤医師2名以上	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	常勤医師1名以上	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	常勤医師2名以上	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	常勤医師2名以上	(変更なし)

分類 ④ 体腔鏡手術 (15 技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II-03 他診療科の医師数

診療科	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
消化器外科	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	麻酔科医師1名以上及び病理医1名以上	病理医1名以上
	58	腹腔鏡下直腸固定術	麻酔科常勤医師1名以上	(変更なし)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	麻酔科医師1名以上、内科医師1名以上	内科医師1名以上
外科血管	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	—	(変更なし)
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	—	(変更なし)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	—	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	麻酔科医師1名以上	(削除)
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	整形外科医師1名以上及び麻酔科医師1名以上	(削除)
産婦人科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	実施医師が小児外科の場合は産科医師1名以上及び麻酔科医師1名以上、実施医師が産科の場合は小児科医師1名以上及び麻酔科医師1名以上	(削除)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	麻酔科医師1名以上、病理医1名以上	病理医1名以上
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	麻酔科標榜医1名以上	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	麻酔科医師1名以上及び病理医1名以上	病理医1名以上
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	麻酔科標榜医1名以上	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	麻酔科標榜医1名以上	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	麻酔科標榜医1名以上	(変更なし)

II-04 その他医療従事者の配置

診療科	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
消化器外科	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	—	臨床工学技士1名以上
	58	腹腔鏡下直腸固定術	臨床工学技士1名以上	(変更なし)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	臨床工学技士1名以上、管理栄養士1名以上	(変更なし)
外科血管	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	—	臨床工学技士1名以上
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	臨床工学技士1名以上	(変更なし)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	臨床工学技士1名以上	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	—	臨床工学技士1名以上
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	—	臨床工学技士1名以上
産婦人科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	臨床工学技士1名以上	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	—	臨床工学技士1名以上
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	—	臨床工学技士1名以上
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	—	臨床工学技士1名以上
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	—	臨床工学技士1名以上
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	臨床工学技士1名以上	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	臨床工学技士1名以上	(変更なし)

II-05 病床数

診療科	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
消化器外科	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	—	20床以上
	58	腹腔鏡下直腸固定術	20床以上	(変更なし)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	20床以上	(変更なし)
外科血管	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	20床以上	(変更なし)
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	100床以上	(変更なし)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	1床以上	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	—	20床以上
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	—	1床以上
産婦人科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	200床以上	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	1床以上	(変更なし)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	1床以上	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	1床以上	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	1床以上	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	20床以上	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	20床以上	(変更なし)

分類 ④ 体腔鏡手術 (15 技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II-06 看護配置

診療科	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
消化器外科	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	—	(変更なし)
	58	腹腔鏡下直腸固定術	入院患者の数が 10 又はその端数を増すごとに 1 名以上 (ただし、当該病棟において、一日に看護を行う看護職員の数が前段に規定する数に相当する数以上である場合には、当該病棟における夜勤を行う看護職員の数が、前段の規定にかかわらず、二以上であること。)	(削除)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	入院患者の数が 10 又はその端数を増すごとに 1 名以上 (ただし、当該病棟において、一日に看護を行う看護職員の数が前段に規定する数に相当する数以上である場合には、当該病棟における夜勤を行う看護職員の数が、前段の規定にかかわらず、二以上であること。)	(削除)
血管外科	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	入院患者の数が 10 又はその端数を増すごとに 1 名以上 (ただし、当該病棟において、一日に看護を行う看護職員の数が前段に規定する数に相当する数以上である場合には、当該病棟における夜勤を行う看護職員の数が、前段の規定にかかわらず、二以上であること。)	(削除)
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	入院患者の数が 10 又はその端数を増すごとに 1 名以上 (ただし、当該病棟において、一日に看護を行う看護職員の数が前段に規定する数に相当する数以上である場合には、当該病棟における夜勤を行う看護職員の数が、前段の規定にかかわらず、二以上であること。)	(削除)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	—	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	—	(変更なし)
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	—	(変更なし)
人産婦科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	—	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	—	(変更なし)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	—	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	—	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	—	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	—	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	—	(変更なし)

II-07 当直体制

診療科	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
消化器外科	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	要	(変更なし)
	58	腹腔鏡下直腸固定術	要	(変更なし)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	要	(変更なし)
血管外科	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	要	(変更なし)
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	要 (専ら心臓血管外科に従事する医師が当直を行っていること)	要
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	要	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	要	(変更なし)
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	要	(変更なし)
人産婦科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	要	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	要	(変更なし)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	要	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	要	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	要	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	要	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	要	(変更なし)

II-08 緊急手術の実施体制

診療科	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
消化器外科	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	要	(変更なし)
	58	腹腔鏡下直腸固定術	要	(変更なし)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	要	(変更なし)
血管外科	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	—	要
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	要	(変更なし)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	要	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	要	(変更なし)
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	要	(変更なし)
人産婦科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	要	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	要	(変更なし)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	要	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	要	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	要	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	要	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	要	(変更なし)

分類	④ 体腔鏡手術 (15 技術)
----	-----------------

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II-09 院内検査 (24 時間実施体制)

診療科	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
外科 消化器	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	要	(変更なし)
	58	腹腔鏡下直腸固定術	要	(変更なし)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	要	(変更なし)
外科 血管	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	—	要
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	要	(変更なし)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	要	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	要	(変更なし)
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	要	(変更なし)
人科 産婦	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	要	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	要	(変更なし)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	要	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	要	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	要	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	要	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	要	(変更なし)

II-11 医療機器の保守管理体制

診療科	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
外科 消化器	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	要	(変更なし)
	58	腹腔鏡下直腸固定術	要	(変更なし)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	要	(変更なし)
外科 血管	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	要	(変更なし)
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	要	(変更なし)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	要	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	要	(変更なし)
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	要	(変更なし)
人科 産婦	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	要	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	要	(変更なし)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	要	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	要	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	要	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	要	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	要	(変更なし)

II-10 他の医療機関との連携体制

診療科	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
外科 消化器	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	—	(変更なし)
	58	腹腔鏡下直腸固定術	—	(変更なし)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	—	(変更なし)
外科 血管	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	—	(変更なし)
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	—	(変更なし)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	—	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	—	(変更なし)
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	—	(変更なし)
人科 産婦	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	—	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	—	(変更なし)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	—	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	—	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	—	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	—	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	—	(変更なし)

II-12 倫理委員会による審査体制

診療科	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
外科 消化器	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	要 (必要なときは必ず事前に開催)	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)
	58	腹腔鏡下直腸固定術	—	(変更なし)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
外科 血管	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	—	(変更なし)
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	—	(変更なし)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	—	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(削除)
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(削除)
産婦人科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	要 (当該療養を実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(削除)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	—	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	—	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	—	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	—	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	—	(変更なし)

分類	④ 体腔鏡手術 (15 技術)
----	-----------------

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II-13 医療安全管理委員会の設置

診療科	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
外科 消化器	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	要	(変更なし)
	58	腹腔鏡下直腸固定術	要	(変更なし)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	要	(変更なし)
外科 血管	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	要	(変更なし)
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	要	(変更なし)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	要	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	要	(変更なし)
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	要	(変更なし)
人 産婦 科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	要	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	要	(変更なし)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	要	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	要	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	要	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	要	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	要	(変更なし)

II-14 当該技術の実施症例数

診療科	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
外科 消化器	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	10 例以上	(変更なし)
	58	腹腔鏡下直腸固定術	10 例以上	(変更なし)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	5 例以上	(変更なし)
外科 血管	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	5 例以上	(変更なし)
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	5 例以上	(変更なし)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	10 例以上	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	10 例以上	(変更なし)
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	10 例以上	(変更なし)
人 産婦 科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	5 例以上	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	10 例以上	5 例以上
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	5 例以上	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	5 例以上	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	3 例以上	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	3 例以上	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	5 例以上	(変更なし)

II-15 その他 (医療機関)

診療科	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
外科 消化器	32	腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	病理部門が設置されていること	(変更なし)
	58	腹腔鏡下直腸固定術	—	(変更なし)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	—	(変更なし)
外科 血管	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	—	(変更なし)
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	—	(変更なし)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	—	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	—	(変更なし)
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	—	(変更なし)
人 産婦 科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	—	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	病理部門が設置されていること	(変更なし)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	—	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	病理部門が設置されていること	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	—	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	—	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	—	(変更なし)

分類	④ 体腔鏡手術 (15 技術)
----	-----------------

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

Ⅲ. その他の要件

Ⅲ-01 頻回の実績報告

診療科	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
消化器外科	32	腹腔鏡補助下膝体尾部切除又は核出術	10 例まで又は 6 月間は、1 月毎の報告	10 例までは症例毎に全数報告
	58	腹腔鏡下直腸固定術	5 例まで又は 4 月間は、1 月毎の報告	(削除)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	12 月間は、1 月毎の報告	10 例までは症例毎に全数報告
血管外科	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	5 例まで又は 3 月間は、1 月毎の報告	(変更なし)
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	12 月間は、1 月毎の報告	12 月間又は 10 例までは、1 月毎の報告
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	10 例まで又は 6 月間は、1 月毎の報告	10 例までは症例毎に全数報告
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	10 例まで又は 6 月間は、1 月毎の報告	(削除)
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	10 例まで又は 6 月間は、1 月毎の報告	10 例までは症例毎に全数報告
産婦人科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	10 例まで又は 6 月間は、1 月毎の報告	10 例までは症例毎に全数報告
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	5 例まで又は 6 月間は、1 月毎の報告	(削除)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	—	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	—	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	—	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	—	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	—	(変更なし)

Ⅲ-02 その他

診療科	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
消化器外科	32	腹腔鏡補助下膝体尾部切除又は核出術	—	(変更なし)
	58	腹腔鏡下直腸固定術	—	(変更なし)
	84	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	—	(変更なし)
血管外科	76	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	—	(変更なし)
	83	胸腔鏡下動脈管開存症手術	—	(変更なし)
整形外科	8	経皮的レーザー椎間板減圧術	—	(変更なし)
	22	鏡視下肩峰下腔除圧術	—	(変更なし)
	29	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	—	(変更なし)
産婦人科	46	内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	—	(変更なし)
	70	腹腔鏡下子宮体がん根治手術	—	(変更なし)
泌尿器科	38	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	—	(変更なし)
	40	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	—	(変更なし)
	65	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	—	(変更なし)
	85	腹腔鏡下膀胱内手術	—	(変更なし)
	86	腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	—	(変更なし)

分類 ⑤体腔鏡以外の手術 (10 技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

対象技術一覧

番号	先進医療技術名称		適応症
	22年3月以前	新技術名	
整形外科関係	26	脊髄腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術(原発性脊髄腫瘍又は転移性脊髄腫瘍に係るものに限る。)	腫瘍脊椎骨全摘術 脊髄腫瘍
	49	超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。)のうち、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。)に係るものに限る。)	超音波骨折治療法 四肢の骨折(開放骨折、粉碎骨折及び治療のために手術中に行われたものを除く。)であって、観血的手術を実施したもの
	59	骨移動術による関節温存型再建(骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に係るものに限る。)	骨移動術による関節温存型再建 骨軟部腫瘍切除後の骨欠損
産婦人科関係	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術 子宮腺筋症
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション(機能性及び器質性過多月経(妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患及びその疑いがある場合を除く。)であって、子宮壁厚十ミリメートル以上の症例に係るものに限る。)	マイクロ波子宮内膜アブレーション 機能性及び器質性過多月経(妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患若しくはその疑いがある場合を除く。)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁の治療	人工括約筋を用いた尿失禁手術 尿失禁
	19	門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術(内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。)	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術 内視鏡的治療若しくは薬物治療に抵抗性を有する食道静脈瘤若しくは胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術(経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。)による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに限る。)	エキシマレーザー冠動脈形成術 冠動脈狭窄症(経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。)による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるもの)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る。)	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術 白内障

番号	先進医療技術名称		適応症
	22年3月以前	新技術名	
その他	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(早期大腸がん(EMR(内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。))では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。)	早期大腸がん(EMR(内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。))では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。)

I. 実施責任医師の要件

I-01 診療科(医師)

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外科	26	腫瘍脊椎骨全摘術	整形外科
	49	超音波骨折治療法	整形外科
	59	骨移動術による関節温存型再建	整形外科
産婦人科	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	産婦人科又は婦人科
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	産婦人科又は婦人科
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	泌尿器科
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	内科又は消化器科
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	循環器科
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	眼科
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	消化器内科、消化器外科、内視鏡内科又は内視鏡外科

I-02 資格

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外科	26	腫瘍脊椎骨全摘術	整形外科専門医
	49	超音波骨折治療法	整形外科専門医
	59	骨移動術による関節温存型再建	整形外科専門医
産婦人科	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	産婦人科専門医
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	産婦人科専門医
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	泌尿器科専門医
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	肝臓専門医
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	循環器専門医
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	眼科専門医
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	消化器内視鏡専門医

分類	⑤体腔鏡以外の手術 (10 技術)
----	-------------------

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

I-03 当該診療科の経験年数

	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
整形外科	26	腫瘍脊椎骨全摘術	—	10 年以上
	49	超音波骨折治療法	5 年以上	(変更なし)
	59	骨移動術による関節温存型再建	5 年以上	(変更なし)
産婦人科	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	10 年以上	5 年以上
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	5 年以上	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	5 年以上	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	—	5 年以上
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	5 年以上	(変更なし)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	5 年以上	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	5 年以上	(変更なし)

I-05 当該技術の経験症例数

	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
整形外科関係	26	腫瘍脊椎骨全摘術	助手又は術者として 20 例以上、うち術者として 10 例以上	助手又は術者として 10 例以上、うち術者として 5 例以上
	49	超音波骨折治療法	術者として 1 例以上	(変更なし)
	59	骨移動術による関節温存型再建	助手又は術者として 6 例以上、うち術者として 3 例以上	(変更なし)
産婦人科	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	助手又は術者として 20 例以上、うち術者として 10 例以上	術者として 10 例以上
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	術者として 3 例以上	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	術者として 3 例以上	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	助手又は術者として 15 例以上、うち術者として 10 例以上	(変更なし)
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	術者として 10 例以上	(変更なし)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	助手又は術者として 15 例以上、うち術者として 10 例以上	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	助手又は術者として 20 例以上、うち術者として 10 例以上	(変更なし)

I-04 当該技術の経験年数

	番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
整形外科	26	腫瘍脊椎骨全摘術	5 年以上	(変更なし)
	49	超音波骨折治療法	1 年以上	(変更なし)
	59	骨移動術による関節温存型再建	5 年以上	(変更なし)
産婦人科	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	3 年以上	(変更なし)
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	1 年以上	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	1 年以上	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	3 年以上	(変更なし)
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	5 年以上	(変更なし)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	1 年以上	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	1 年以上	(変更なし)

分類. ⑤体腔鏡以外の手術 (10 技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類比較)

I-06 その他(医師)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	26	腫瘍脊椎骨全摘術	—	(変更なし)
	49	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	59	骨移動術による関節温存型再建	—	(変更なし)
産婦人	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	—	(変更なし)
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	—	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	—	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	—	(変更なし)
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	—	(変更なし)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	—	(変更なし)

II-02 実施診療科の医師数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	26	腫瘍脊椎骨全摘術	常勤医師3名以上	(変更なし)
	49	超音波骨折治療法	常勤医師1名以上	(変更なし)
	59	骨移動術による関節温存型再建	常勤医師2名以上	(変更なし)
産婦人	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	常勤医師3名以上	常勤医師2名以上
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	常勤医師1名以上	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	常勤医師2名以上	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	常勤医師2名以上	(変更なし)
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	常勤医師3名以上	(変更なし)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	常勤医師1名以上	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	常勤医師2名以上	(変更なし)

II. 医療機関の要件

II-01 診療科(医療機関)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	26	腫瘍脊椎骨全摘術	整形外科及び麻酔科	(変更なし)
	49	超音波骨折治療法	整形外科	(変更なし)
	59	骨移動術による関節温存型再建	整形外科及び麻酔科	(変更なし)
産婦人	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	産婦人科	産婦人科又は婦人科
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	産婦人科又は婦人科	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	泌尿器科	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	内科又は消化器科並びに外科及び麻酔科	消化器内科又は消化器外科、麻酔科及び放射線科。ただし、術者が消化器内科の場合は、消化器内科、消化器外科、麻酔科及び放射線科
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	循環器科、心臓血管外科及び麻酔科	循環器内科、心臓血管外科及び麻酔科
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	眼科	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	消化器内科、消化器外科、内視鏡内科又は内視鏡外科	消化器内科、消化器外科、内視鏡内科又は内視鏡外科。ただし、術者が消化器内科、内視鏡内科又は内視鏡外科の場合は、消化器内科、内視鏡内科又は内視鏡外科及び消化器外科

II-03 他診療科の医師数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外科関係	26	腫瘍脊椎骨全摘術	麻酔科医師1名以上及び病理医1名以上	呼吸器外科専門医及び消化器外科専門医1名以上、病理医1名以上
	49	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	59	骨移動術による関節温存型再建	麻酔科医師1名以上	(不要)
産婦人	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	—	麻酔科標榜医1名以上
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	麻酔科医師1名以上	麻酔科標榜医1名以上
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	麻酔科標榜医1名以上	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	外科医師2名以上及び麻酔科医師1名以上	消化器外科医師2名以上
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	心臓血管外科医師2名以上及び麻酔科医師1名以上	心臓血管外科医師2名以上
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	外科医師2名以上	消化器外科医師2名以上

分類 ⑤体腔鏡以外の手術 (10 技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II-04 その他医療従事者の配置

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外科	26	腫瘍脊椎骨全摘術	理学療法士1名以上	臨床工学技士1名以上
	49	超音波骨折治療法	—	臨床工学技士1名以上
	59	骨移動術による関節温存型再建	—	臨床工学技士1名以上
産婦人科	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	—	臨床工学技士1名以上
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	—	臨床工学技士1名以上
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	—	臨床工学技士1名以上
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	臨床工学技士1名以上	(変更なし)
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	臨床工学技士1名以上	(変更なし)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	視能訓練士1名以上
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	—	臨床工学技士1名以上

II-05 病床数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外科	26	腫瘍脊椎骨全摘術	—	200床以上
	49	超音波骨折治療法	1床以上	(変更なし)
	59	骨移動術による関節温存型再建	1床以上	(変更なし)
産婦人科	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	20床以上	1床以上
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	1床以上	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	1床以上	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	—	20床以上
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	—	20床以上
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	1床以上	(変更なし)

II-06 看護配置

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外科関係	26	腫瘍脊椎骨全摘術	—	(変更なし)
	49	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	59	骨移動術による関節温存型再建	入院患者の数が10又はその端数を増すごとに1名以上(ただし、当該病棟において、一日に看護を行う看護職員の数が前段に規定する数に相当する数以上である場合には、当該病棟における夜勤を行う看護職員の数が、前段の規定にかかわらず、二以上であること。)	(不要)
産婦人科	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	—	(変更なし)
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	—	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	—	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	—	(変更なし)
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	—	(変更なし)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	—	(変更なし)

II-07 当直体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外科	26	腫瘍脊椎骨全摘術	要	(変更なし)
	49	超音波骨折治療法	要	(不要)
	59	骨移動術による関節温存型再建	要	(変更なし)
産婦人科	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	要	(変更なし)
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	要(専ら産婦人科又は婦人科に従事する医師が当直を行っていること)	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	要	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	要	(変更なし)
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	要	(変更なし)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	要	(変更なし)

II-08 緊急手術の実施体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外科	26	腫瘍脊椎骨全摘術	要	(変更なし)
	49	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	59	骨移動術による関節温存型再建	要	(変更なし)
産婦人科	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	要	(変更なし)
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	要	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	要	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	要	(変更なし)
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	要	(変更なし)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	要(緊急の場合における開腹手術を実施する体制が整備されていること)	(変更なし)

II-09 院内検査(24時間実施体制)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外科	26	腫瘍脊椎骨全摘術	要	(変更なし)
	49	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	59	骨移動術による関節温存型再建	要	(変更なし)
産婦人科	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	要	(変更なし)
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	要	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	要	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	要	(変更なし)
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	要	(変更なし)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	要	(変更なし)

分類 ⑤体腔鏡以外の手術 (10技術)

II-10 他の医療機関との連携体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	26	腫瘍脊椎骨全摘術	化学療法その他悪性腫瘍に係る治療を行う体制において可	(不要)
	49	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	59	骨移動術による関節温存型再建	—	(変更なし)
産婦	1	高周波切除器を用いた子宮筋症核出術	—	(変更なし)
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	—	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	—	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	—	(変更なし)
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	—	(変更なし)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	—	(変更なし)

II-11 医療機器の保守管理体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	26	腫瘍脊椎骨全摘術	要	(変更なし)
	49	超音波骨折治療法	要	(変更なし)
	59	骨移動術による関節温存型再建	要	(変更なし)
産婦	1	高周波切除器を用いた子宮筋症核出術	要	(変更なし)
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	要	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	要	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	要	(変更なし)
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	要	(変更なし)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	要	(変更なし)

II-12 倫理委員会による審査体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	26	腫瘍脊椎骨全摘術	要(必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	49	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	59	骨移動術による関節温存型再建	—	(変更なし)
産婦	1	高周波切除器を用いた子宮筋症核出術	—	(変更なし)
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	—	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	—	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	要(必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	要(必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	要(届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)

II-13 医療安全管理委員会の設置

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	26	腫瘍脊椎骨全摘術	要	(変更なし)
	49	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	59	骨移動術による関節温存型再建	要	(変更なし)
産婦	1	高周波切除器を用いた子宮筋症核出術	要	(変更なし)
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	要	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	要	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	要	(変更なし)
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	要	(変更なし)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	要	(変更なし)

II-14 当該技術の実施症例数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	26	腫瘍脊椎骨全摘術	5例以上	(変更なし)
	49	超音波骨折治療法	—	1例以上
	59	骨移動術による関節温存型再建	3例以上	(変更なし)
産婦	1	高周波切除器を用いた子宮筋症核出術	5例以上	(変更なし)
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	3例以上	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	5例以上	3例以上
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	5例以上	(変更なし)
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	10例以上	(変更なし)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	10例以上	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	20例以上	(変更なし)

II-15 その他(医療機関)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外科関係	26	腫瘍脊椎骨全摘術	病理部門が設置されていること、当該療法の実施後に化学療法その他悪性腫瘍に係る治療を行う体制が整備されていること	病理部門が設置されていること
	49	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	59	骨移動術による関節温存型再建	—	(変更なし)
産婦人科	1	高周波切除器を用いた子宮筋症核出術	—	(変更なし)
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	術中・術後に子宮鏡検査及び超音波検査を実施する体制が整備されていること	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	—	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	—	(変更なし)
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	—	(変更なし)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	二十四時間画像診断を実施する体制が整備されていること	(変更なし)

分類	⑤体腔鏡以外の手術 (10 技術)
----	-------------------

Ⅲ. その他の要件

Ⅲ-01 頻回の実績報告

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	26	腫瘍脊椎骨全摘術	10例まで又は6月間は、1月毎の報告	(変更なし)
	49	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	59	骨移動術による関節温存型再建	—	(変更なし)
産婦人	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	20症例まで又は6月間は、1月毎の報告	(不要)
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	—	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	—	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	—	(変更なし)
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	10例まで又は6月間は、1月毎の報告	(変更なし)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	6月間は1月毎の報告	(変更なし)

Ⅲ-02 その他

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	26	腫瘍脊椎骨全摘術	—	(変更なし)
	49	超音波骨折治療法	—	(変更なし)
	59	骨移動術による関節温存型再建	—	(変更なし)
産婦人	1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	—	(変更なし)
	74	マイクロ波子宮内膜アブレーション	—	(変更なし)
その他	6	人工括約筋を用いた尿失禁手術	—	(変更なし)
	19	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	—	(変更なし)
	36	エキシマレーザー冠動脈形成術	—	(変更なし)
	66	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	—	(変更なし)
	78	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	—	(変更なし)

対象技術一覧

番号	先進医療技術名称		適応症
	22年3月以前	新技術名	
整形 外科 関係	31	骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体室素処理骨移植	自家液体室素処理骨移植 骨軟部腫瘍切除後の骨欠損
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存 (骨又は靭帯の再建術であって、先天性疾患、外傷性 (欠損性又は感染性偽関節に係るものに限る。)、骨腫瘍切除後、関節固定術時若しくは人工関節置換術時 (初回又は再置換術時に限る。)) の広範囲骨欠損、脊椎固定術時の骨融合促進又は靭帯断裂による関節不安定性に係るものに限る。)	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存 骨又は靭帯組織の欠損
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	凍結保存同種組織を用いた外科治療 心臓弁又は血管を移植する手術 (組織の凍結保存を同一施設内で行うものに限る。) を行うもの
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術 (再発翼状片、角膜上皮欠損 (角膜移植によるものを含む。)、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜瘻痕、瞼球癒着 (ステープルス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷瘻痕その他の重症の瘻痕性角結膜疾患を含む。)、結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。)	難治性眼疾患に対する羊膜移植術 再発翼状片、角膜上皮欠損 (角膜移植によるものを含む。)、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜瘻痕、瞼球癒着 (ステープルス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷瘻痕その他の重症の瘻痕性角結膜疾患を含む。)、結膜上皮内過形成、結膜腫瘍その他の眼表面疾患
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植 (H L A 適合ドナーがないために造血幹細胞移植が受けられない小児のがん、難治性造血障害又は免疫不全症に係るものに限る。)	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植 H L A 適合ドナーがないために造血幹細胞移植が受けられない小児悪性腫瘍、難治性造血障害又は免疫不全症

I. 実施責任医師の要件

I-01 診療科 (医師)

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形 外科	31 自家液体室素処理骨移植	整形外科	(変更なし)
	51 非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	整形外科	(変更なし)
その他	3 凍結保存同種組織を用いた外科治療	外科、心臓血管外科、小児外科又は泌尿器科	(変更なし)
	24 難治性眼疾患に対する羊膜移植術	眼科	(変更なし)
	41 H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	内科又は小児科	(変更なし)

I-02 資格

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形 外科	31 自家液体室素処理骨移植	整形外科専門医	(変更なし)
	51 非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	整形外科専門医	(変更なし)
その他	3 凍結保存同種組織を用いた外科治療	外科専門医、心臓血管外科専門医、小児外科専門医又は泌尿器科専門医	(変更なし)
	24 難治性眼疾患に対する羊膜移植術	眼科専門医	(変更なし)
	41 H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	血液専門医	(変更なし)

I-03 当該診療科の経験年数

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形 外科	31 自家液体室素処理骨移植	—	5年以上
	51 非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	5年以上	(変更なし)
その他	3 凍結保存同種組織を用いた外科治療	10年以上	(変更なし)
	24 難治性眼疾患に対する羊膜移植術	5年以上	(変更なし)
	41 H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	—	5年以上

I-04 当該技術の経験年数

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形 外科	31 自家液体室素処理骨移植	5年以上	(変更なし)
	51 非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	5年以上	(変更なし)
その他	3 凍結保存同種組織を用いた外科治療	5年以上	(変更なし)
	24 難治性眼疾患に対する羊膜移植術	5年以上	(変更なし)
	41 H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	5年以上	(変更なし)

分類	⑥ 移植術関係 (5技術)
----	---------------

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

I-05 当該技術の経験症例数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体窒素処理骨移植	術者として5例以上	(変更なし)
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	助手又は術者として5例以上、うち術者として3例以上	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	助手又は術者として15例以上、うち術者として10例以上	助手又は術者として10例以上、うち術者として5例以上
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	助手又は術者として6例以上、うち術者として3例以上	(変更なし)
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	術者として3例以上	(変更なし)

II-02 実施診療科の医師数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体窒素処理骨移植	常勤医師3名以上	(変更なし)
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	整形外科専門医である常勤医師2名以上	常勤医師2名以上
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	常勤医師3名以上	(変更なし)
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	常勤医師3名以上	(変更なし)
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	常勤医師2名以上	(変更なし)

II-03 他診療科の医師数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体窒素処理骨移植	麻酔科医師1名以上及び病理医1名以上	病理医1名以上
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	麻酔科標榜医1名以上	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	麻酔科医師1名以上	(削除)
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	産科医師1名以上、麻酔科医師1名以上、輸血部門常勤医師1名以上	産科医師1名以上、輸血部門常勤医師1名以上
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	輸血部門常勤医師1名以上	(変更なし)

I-06 その他 (医師)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体窒素処理骨移植	—	(変更なし)
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	—	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	—	(変更なし)
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	—	(変更なし)
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	—	(変更なし)

II. 医療機関の要件

II-01 診療科 (医療機関)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体窒素処理骨移植	整形外科及び麻酔科	整形外科
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	整形外科	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	外科、心臓血管外科、小児外科又は泌尿器科及び麻酔科	(変更なし)
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	眼科、産科及び麻酔科	(変更なし)
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	内科又は小児科	(変更なし)

II-04 その他医療従事者の配置

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体窒素処理骨移植	理学療法士1名以上	(削除)
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	組織移植を専ら担当する者1名以上	(削除)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	臨床工学技士1名以上	臨床検査技師1名以上
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	専任の細胞培養を担当する者1名以上	(変更なし)
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	専任の細胞培養を担当する者1名以上	(変更なし)

II-05 病床数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体室素処理骨移植	—	20床以上
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	1床以上	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	200床以上	(変更なし)
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	—	(変更なし)
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	—	(変更なし)

II-06 看護配置

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体室素処理骨移植	—	(変更なし)
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	—	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	入院患者の数が10又はその端数を増すごとに1名以上(ただし、当該病棟において、一日に看護を行う看護職員の数が前段に規定する数に相当する数以上である場合には、当該病棟における夜勤を行う看護職員の数が、前段の規定にかかわらず、二以上であること。)	(削除)
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	—	(変更なし)
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	—	(変更なし)

II-07 当直体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体室素処理骨移植	要	(変更なし)
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	要	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	要	(変更なし)
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	要	(変更なし)
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	要	(変更なし)

II-08 緊急手術の実施体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体室素処理骨移植	要	(変更なし)
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	要	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	要	(変更なし)
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	要	(変更なし)
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	要	(変更なし)

II-09 院内検査 (24 時間実施体制)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体室素処理骨移植	要	(変更なし)
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	要	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	要	(変更なし)
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	要	(変更なし)
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	要	(変更なし)

II-10 他の医療機関との連携体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体室素処理骨移植	化学療法その他悪性腫瘍に係る治療を行う体制において可	(削除)
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	—	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	—	(変更なし)
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	—	(変更なし)
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	—	(変更なし)

II-11 医療機器の保守管理体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体室素処理骨移植	要	(変更なし)
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	要	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	要	(変更なし)
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	要	(変更なし)
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	要	(変更なし)

分類	⑥ 移植術関係 (5 技術)
----	----------------

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II-12 倫理委員会による審査体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体窒素処理骨移植	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	要 (必要なときは必ず事前に開催)	(変更なし)

II-13 医療安全管理委員会の設置

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体窒素処理骨移植	要	(変更なし)
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	要	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	要	(変更なし)
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	要	(変更なし)
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	要	(変更なし)

II-14 当該技術の実施症例数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体窒素処理骨移植	5例以上	(変更なし)
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	5例以上	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	10例以上	5例以上
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	3例以上	(変更なし)
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	3例以上	(変更なし)

II-15 その他 (医療機関)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体窒素処理骨移植	病理部門が設置されていること、当該療法の実施後に化学療法その他悪性腫瘍に係る治療を行う体制が整備されていること	病理部門が設置されていること
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	日本組織移植学会の認定する組織バンクを有していること	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	日本組織移植学会の選定する施設であること	日本組織移植学会の認定する組織バンクを有していること
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	輸血部門が設置されていること、院内で細胞培養を実施していること	(変更なし)
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	輸血部門が設置されていること、院内で細胞培養を実施していること	(変更なし)

III. その他の要件

III-01 頻回の実績報告

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体窒素処理骨移植	10例まで又は6月間は、1月毎の報告	(変更なし)
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	10例まで又は6月間は、1月毎の報告	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	6月間は、1月毎の報告	(変更なし)
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	10例まで又は6月間は、1月毎の報告	(変更なし)
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	10例まで又は6月間は、1月毎の報告	(変更なし)

III-02 その他

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
整形外	31	自家液体窒素処理骨移植	—	(変更なし)
	51	非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	—	(変更なし)
その他	3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	—	(変更なし)
	24	難治性眼疾患に対する羊膜移植術	—	(変更なし)
	41	H L A 抗原不一致血縁ドナーからの C D 34 陽性造血幹細胞移植	—	(変更なし)

対象技術一覧

番号	先進医療技術名称		適応症	
	22年3月以前	新技術名		
整形外科関係	2	膝関節再建手術における画像支援ナビゲーション(前十字靭帯損傷又は後十字靭帯損傷に係るものに限る。)	膝関節再建手術における画像支援ナビゲーション	前十字靭帯損傷又は後十字靭帯損傷
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	高度の欠損又は変形を有する股関節疾患
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術(人工股関節のたるみに係るものに限る。)	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	人工股関節再置換術を行うものに係るもの
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援(骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷に係るものに限る。)	実物大臓器立体モデルによる手術支援	骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷
その他	15	三次元形状解析による顔面の形態的診断(頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。)	三次元形状解析による体表の形態的診断	頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション(原発性肝がん、肝内胆管がん、転移性肝がん又は生体肝移植ドナーに係るものに限る。)	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	肝がん、肝内胆管がん又は生体肝移植ドナーである者に係るもの

I. 実施責任医師の要件

I-01 診療科(医師)

診療科	番号	先進医療新技術名称(略称、以下同)	22年3月以前	22年4月以降
整形外科関係	2	膝関節再建手術における画像支援ナビゲーション	整形外科	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	整形外科	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	整形外科	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	整形外科	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断又は歯科口腔外科	形成外科、脳神経外科、小児外科、眼科、耳鼻いんこう科	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	外科	消化器外科

I-02 資格

診療科	番号	先進医療新技術名称(略称、以下同)	22年3月以前	22年4月以降
整形外科関係	2	膝関節再建手術における画像支援ナビゲーション	整形外科専門医	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	整形外科専門医	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	整形外科専門医	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	整形外科専門医	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	形成外科専門医、脳神経外科専門医、小児外科専門医、眼科専門医、耳鼻咽喉科専門医又は口腔外科専門医	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	消化器外科専門医	(変更なし)

分類 ⑦ 画像等による手術支援 (6技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

I-03 当該診療科の経験年数

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22年3月以前	22年4月以降
整形外科関係	2	膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	—	5年以上
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	—	5年以上
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	5年以上	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	6年以上	5年以上
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	4年以上	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	10年以上	(変更なし)

I-05 当該技術の経験症例数

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22年3月以前	22年4月以降
整形外科関係	2	膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	助手又は術者として8例以上、うち術者として3例以上	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	術者として5例以上	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	術者として3例以上	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	術者として5例以上	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	術者として5例以上	術者として3例以上
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	術者として1例以上	(変更なし)

I-04 当該技術の経験年数

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22年3月以前	22年4月以降
整形外科関係	2	膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	1年以上	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	5年以上	1年以上
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	1年以上	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	5年以上	1年以上
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	1年以上	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	1年以上	(変更なし)

I-06 その他(医師)

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22年3月以前	22年4月以降
整形外科関係	2	膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	—	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	—	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	—	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	—	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	—	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	—	(変更なし)

II. 医療機関の要件

II-01 診療科 (医療機関)

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
整形外科関係	2	膝韧带再建手術における画像支援ナビゲーション	整形外科	整形外科及び麻酔科
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	整形外科及び麻酔科	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	整形外科及び麻酔科	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	整形外科	整形外科、麻酔科及び放射線科
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	形成外科、脳神経外科、小児外科、眼科、耳鼻いんこう科又は歯科口腔外科、及び麻酔科	形成外科、脳神経外科、小児外科、眼科、耳鼻いんこう科又は歯科口腔外科
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	外科及び麻酔科	消化器外科及び麻酔科

II-02 実施診療科の医師数

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
整形外科関係	2	膝韧带再建手術における画像支援ナビゲーション	常勤医師 2 名以上	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	常勤医師 2 名以上	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	常勤医師 2 名以上	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	常勤医師 2 名以上	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	常勤の医師又は歯科医師 1 名以上	常勤医師 1 名以上
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	常勤医師 2 名以上	(変更なし)

II-03 他診療科の医師数

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
整形外科関係	2	膝韧带再建手術における画像支援ナビゲーション	—	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	—	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	麻酔科医師 1 名以上	(削除)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	—	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	—	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	麻酔科常勤医師 1 名以上	(削除)

II-04 その他医療従事者の配置

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
整形外科関係	2	膝韧带再建手術における画像支援ナビゲーション	—	臨床工学技士 1 名以上
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	—	臨床工学技士 1 名以上
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	臨床工学技士 1 名以上	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	—	臨床工学技士 1 名以上
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	—	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	臨床工学技士 1 名以上	(変更なし)

分類 ⑦ 画像等による手術支援 (6技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II-05 病床数

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22年3月以前	22年4月以降
整形外科関係	2	膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	1床以上	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	—	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	200床以上	200床以上
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	200床以上	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	—	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	200床以上	(変更なし)

II-06 看護配置

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22年3月以前	22年4月以降
整形外科関係	2	膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	—	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	—	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	入院患者の数が10又はその端数を増すごとに1名以上(ただし、当該病棟において、一日に看護を行う看護職員の数が前段に規定する数に相当する数以上である場合には、当該病棟における夜勤を行う看護職員の数が、前段の規定にかかわらず、二以上であること。)	(削除)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	—	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	—	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	入院患者の数が10又はその端数を増すごとに1名以上(ただし、当該病棟において、一日に看護を行う看護職員の数が前段に規定する数に相当する数以上である場合には、当該病棟における夜勤を行う看護職員の数が、前段の規定にかかわらず、二以上であること。)	(削除)

II-07 当直体制

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22年3月以前	22年4月以降
整形外科	2	膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	要	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	要	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	要	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	要	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	—	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	要	(変更なし)

II-08 緊急手術の実施体制

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22年3月以前	22年4月以降
整形外科	2	膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	要	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	要	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	要	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	要	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	—	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	要	(変更なし)

II-09 院内検査 (24時間実施体制)

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22年3月以前	22年4月以降
整形外科関係	2	膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	要	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	要	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	要	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	要	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	—	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	要	(変更なし)

分類 ⑦ 画像等による手術支援 (6技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II-10 他の医療機関との連携体制

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22年3月以前	22年4月以降
整形外科	2	膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	—	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	—	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	—	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	—	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	—	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	—	(変更なし)

II-11 医療機器の保守管理体制

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22年3月以前	22年4月以降
整形外科	2	膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	要	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	要	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	要	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	要	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	要	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	要	(変更なし)

II-12 倫理委員会による審査体制

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22年3月以前	22年4月以降
整形外科	2	膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	—	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	—	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	—	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	—	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	—	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	—	(変更なし)

II-13 医療安全管理委員会の設置

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22年3月以前	22年4月以降
整形外科	2	膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	要	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	要	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	要	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	要	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	—	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	要	(変更なし)

II-14 当該技術の実施症例数

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22年3月以前	22年4月以降
整形外科	2	膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	5例以上	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	5例以上	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	3例以上	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	5例以上	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	5例以上	3例以上
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	—	5例以上

II-15 その他 (医療機関)

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22年3月以前	22年4月以降
整形外科	2	膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	—	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	—	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	—	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	—	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	—	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	—	(変更なし)

分類	⑦ 画像等による手術支援 (6 技術)
----	---------------------

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

Ⅲ. その他の要件

Ⅲ-01 頻回の実績報告

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
整形外科	2	膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	20 症例まで又は 6 月間は、1 月毎の報告	(削除)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	—	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	—	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	—	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	—	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	—	(変更なし)

Ⅲ-02 その他

診療科	番号	先進医療新技術名称 (略称、以下同)	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
整形外科関係	2	膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	—	(変更なし)
	39	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	—	(変更なし)
	57	セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	—	(変更なし)
	79	実物大臓器立体モデルによる手術支援	—	(変更なし)
その他	15	三次元形状解析による体表の形態的診断	—	(変更なし)
	60	肝切除手術における画像支援ナビゲーション	—	(変更なし)

分類 ⑧ 放射線治療・再生医療・免疫療法 (8技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

対象技術一覧

番号	先進医療技術名称		適応症
	22年3月以前	新技術名	
粒子線	17	悪性腫瘍に対する陽子線治療 (固形がんに係るものに限る。)	陽子線治療 限局性固形がん
	25	重粒子線治療 (固形がんに係るものに限る。)	重粒子線治療 限局性固形がん
再生医療関係	20	骨髄細胞移植による血管新生療法 (閉塞性動脈硬化症又はパージャ一病 (従来の治療法に抵抗性を有するものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。))に係るものに限る。)	閉塞性動脈硬化症又はパージャ一病 (従来の治療法に抵抗性を有するものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療 (慢性閉塞性動脈硬化症又はパージャ一病 (重篤な虚血性心疾患又は脳血管障害を有するものを除く。))に係るものに限る。)	慢性閉塞性動脈硬化症又はパージャ一病 (重篤な虚血性心疾患又は脳血管障害を有するものを除く。)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療 (慢性閉塞性動脈硬化症又はパージャ一病 (従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	慢性閉塞性動脈硬化症又はパージャ一病 (従来の内科的治療及び外科的治療が無効であるもの限り、三年以内の悪性新生物の既往を有する者又は未治療の糖尿病性網膜症である者に係るものを除く。)
免疫療法関係	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法 (腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍 (食道がん、胃がん又は大腸がん)、進行再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がんに係るものに限る。)	腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍 (食道がん、胃がん又は大腸がん)、進行再発乳がん又は肺がん
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法 (がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	がん性の胸水若しくは腹水又は進行がん
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法 (がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	がん性の胸水若しくは腹水又は進行がん

I. 実施責任医師の要件

I-01 診療科 (医師)

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17 陽子線治療	放射線科	(変更なし)
	25 重粒子線治療	放射線科	(変更なし)
再生医療関係	20 骨髄細胞移植による血管新生療法	循環器科、外科又は心臓血管外科	循環器内科、外科又は心臓血管外科
	44 末梢血幹細胞による血管再生治療	循環器科、外科又は心臓血管外科	循環器内科、外科又は心臓血管外科
	45 末梢血単核球移植による血管再生治療	循環器科、外科又は心臓血管外科	循環器内科又は心臓血管外科
免疫療法関係	61 樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	内科、消化器科又は外科	血液内科、消化器内科、呼吸器内科、呼吸器外科、消化器外科又は乳腺外科
	62 自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	内科、呼吸器科、消化器科又は外科	血液内科、消化器内科、呼吸器内科、呼吸器外科又は消化器外科
	63 自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	内科、呼吸器科、消化器科又は外科	血液内科、消化器内科、呼吸器内科、呼吸器外科又は消化器外科

I-02 資格

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17 陽子線治療	放射線科専門医	(変更なし)
	25 重粒子線治療	放射線科専門医	(変更なし)
再生医療関係	20 骨髄細胞移植による血管新生療法	循環器専門医又は心臓血管外科専門医	(変更なし)
	44 末梢血幹細胞による血管再生治療	循環器専門医又は心臓血管外科専門医	(変更なし)
	45 末梢血単核球移植による血管再生治療	循環器専門医又は心臓血管外科専門医	(変更なし)
免疫療法関係	61 樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	血液専門医、消化器病専門医、呼吸器外科専門医、消化器外科専門医又は乳腺専門医	血液専門医、消化器病専門医、呼吸器専門医、呼吸器外科専門医、消化器外科専門医又は乳腺専門医
	62 自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	血液専門医、消化器病専門医、呼吸器外科専門医又は消化器外科専門医	血液専門医、消化器病専門医、呼吸器専門医、呼吸器外科専門医又は消化器外科専門医
	63 自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	血液専門医、消化器病専門医、呼吸器外科専門医又は消化器外科専門医	血液専門医、消化器病専門医、呼吸器専門医、呼吸器外科専門医又は消化器外科専門医

I-03 当該診療科の経験年数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	10年以上	(変更なし)
	25	重粒子線治療	10年以上	(変更なし)
再生医療	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	10年以上	(変更なし)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	10年以上	(変更なし)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	10年以上	(変更なし)
免疫療法関係	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	—	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	—	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	—	(変更なし)

I-05 当該技術の経験症例数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	助手又は術者として10例以上、うち術者として5例以上	(変更なし)
	25	重粒子線治療	助手又は術者として10例以上、うち術者として5例以上	(変更なし)
再生医療関係	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	術者として5例以上	(変更なし)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	術者として5例以上	(変更なし)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	術者として5例以上	(変更なし)
免疫療法関係	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	術者として5例以上	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	術者として5例以上	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	術者として5例以上	(変更なし)

I-04 当該技術の経験年数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	2年以上	(変更なし)
	25	重粒子線治療	2年以上	(変更なし)
再生医療	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	5年以上	(変更なし)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	5年以上	(変更なし)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	5年以上	(変更なし)
免疫療法関係	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	5年以上	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	5年以上	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	5年以上	(変更なし)

I-06 その他(医師)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	—	(変更なし)
	25	重粒子線治療	—	(変更なし)
再生医療関係	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	—	(変更なし)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	—	(変更なし)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	—	(変更なし)
免疫療法関係	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	—	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	—	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	—	(変更なし)

II. 医療機関の要件

II-01 診療科 (医療機関)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	放射線科	(変更なし)
	25	重粒子線治療	放射線科	(変更なし)
再生医療関係	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	循環器科、外科、心臓血管外科及び麻酔科	循環器内科、外科又は心臓血管外科及び麻酔科
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	循環器科、外科又は心臓血管外科、及び麻酔科	循環器内科、外科又は心臓血管外科及び麻酔科
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	循環器科、外科又は心臓血管外科及び麻酔科	循環器内科又は心臓血管外科及び麻酔科
免疫療法関係	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	内科、消化器科又は外科	血液内科、消化器内科、呼吸器内科、呼吸器外科、消化器外科又は乳腺外科
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	内科、呼吸器科、消化器科又は外科	血液内科、消化器内科、呼吸器内科、呼吸器外科又は消化器外科
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	内科、呼吸器科、消化器科又は外科	血液内科、消化器内科、呼吸器内科、呼吸器外科又は消化器外科

II-02 実施診療科の医師数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	常勤医師2名以上	(変更なし)
	25	重粒子線治療	常勤医師2名以上	(変更なし)
再生医療関係	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	常勤医師2名以上	(変更なし)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	常勤医師2名以上	(変更なし)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	常勤医師2名以上	(変更なし)
免疫療法関係	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	常勤医師2名以上	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	常勤医師2名以上	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	常勤医師2名以上	(変更なし)

II-03 他診療科の医師数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	—	(変更なし)
	25	重粒子線治療	—	(変更なし)
再生医療関係	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	麻酔科医師1名以上及び輸血部門常勤医師1名以上	輸血部門常勤医師1名以上
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	麻酔科医師1名以上及び輸血部門常勤医師1名以上	輸血部門常勤医師1名以上
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	麻酔科医師1名以上及び輸血部門常勤医師1名以上	輸血部門常勤医師1名以上
免疫療法関係	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	病理医1名以上及び輸血部門常勤医師1名以上	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	—	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	—	(変更なし)

II-04 その他医療従事者の配置

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	診療放射線技師1名以上	(変更なし)
	25	重粒子線治療	診療放射線技師1名以上	(変更なし)
再生医療関係	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	専任の細胞培養を担当する者1名以上	(変更なし)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	専任の細胞培養を担当する者1名以上	(変更なし)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	専任の細胞培養を担当する者1名以上	(変更なし)
免疫療法関係	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	専任の細胞培養を担当する者1名以上	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	専任の細胞培養を担当する者1名以上	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	専任の細胞培養を担当する者1名以上	(変更なし)

II-05 病床数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	—	(変更なし)
	25	重粒子線治療	—	(変更なし)
再生医療	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	200床以上	(変更なし)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	200床以上	(変更なし)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	200床以上	(変更なし)
免疫療法関係	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	—	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	—	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	—	(変更なし)

II-07 当直体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	—	(変更なし)
	25	重粒子線治療	—	(変更なし)
再生医療	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	要	(変更なし)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	要	(変更なし)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	要	(変更なし)
免疫療法	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	要	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	要	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	要	(変更なし)

II-06 看護配置

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	—	(変更なし)
	25	重粒子線治療	—	(変更なし)
再生医療関係	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	入院患者の数が10又はその端数を増すごとに1名以上(ただし、当該病棟において、一日に看護を行う看護職員の数が前段に規定する数に相当する数以上である場合には、当該病棟における夜勤を行う看護職員の数が、前段の規定にかかわらず、二以上であること。)	(不要)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	入院患者の数が10又はその端数を増すごとに1名以上(ただし、当該病棟において、一日に看護を行う看護職員の数が前段に規定する数に相当する数以上である場合には、当該病棟における夜勤を行う看護職員の数が、前段の規定にかかわらず、二以上であること。)	(不要)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	入院患者の数が10又はその端数を増すごとに1名以上(ただし、当該病棟において、一日に看護を行う看護職員の数が前段に規定する数に相当する数以上である場合には、当該病棟における夜勤を行う看護職員の数が、前段の規定にかかわらず、二以上であること。)	(不要)
免疫療法関係	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	—	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	—	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	—	(変更なし)

II-08 緊急手術の実施体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	—	(変更なし)
	25	重粒子線治療	—	(変更なし)
再生医療	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	要	(変更なし)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	要	(変更なし)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	要	(変更なし)
免疫療法	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	要	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	要	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	要	(変更なし)

II-09 院内検査(24時間実施体制)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	—	(変更なし)
	25	重粒子線治療	—	(変更なし)
再生医療	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	要	(変更なし)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	要	(変更なし)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	要	(変更なし)
免疫療法	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	要	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	要	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	要	(変更なし)

II-10 他の医療機関との連携体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	—	(変更なし)
	25	重粒子線治療	—	(変更なし)
再生医療	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	—	(変更なし)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	—	(変更なし)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	—	(変更なし)
免疫療法	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	—	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	—	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	—	(変更なし)

II-11 医療機器の保守管理体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	要	(変更なし)
	25	重粒子線治療	要	(変更なし)
再生医療	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	要	(変更なし)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	要	(変更なし)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	要	(変更なし)
免疫療法	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	要	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	要	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	要	(変更なし)

II-12 倫理委員会による審査体制

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	要 (必要ときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	25	重粒子線治療	要 (必要ときは必ず事前に開催)	(変更なし)
再生医療関係	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	要 (届出後当該療養を初めて実施するときは必ず事前に開催)	(変更なし)
免疫療法関係	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	要 (必要ときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	要 (必要ときは必ず事前に開催)	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	要 (必要ときは必ず事前に開催)	(変更なし)

II-13 医療安全管理委員会の設置

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	要	(変更なし)
	25	重粒子線治療	要	(変更なし)
再生医療	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	要	(変更なし)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	要	(変更なし)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	要	(変更なし)
免疫療法	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	要	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	要	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	要	(変更なし)

II-14 当該技術の実施症例数

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	10例以上	(変更なし)
	25	重粒子線治療	10例以上	(変更なし)
再生医療	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	5例以上	(変更なし)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	5例以上	(変更なし)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	5例以上	(変更なし)
免疫療法	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	15例以上	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	15例以上	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	15例以上	(変更なし)

II-15 その他 (医療機関)

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	—	(変更なし)
	25	重粒子線治療	—	(変更なし)
再生医療関係	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	輸血部門が設置されていること、院内で細胞培養を実施していること	(変更なし)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	輸血部門が設置されていること、院内で細胞培養を実施していること	(変更なし)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	輸血部門が設置されていること、院内で細胞培養を実施していること	(変更なし)
免疫療法関係	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	病理部門が設置されていること、輸血部門が設置されていること、院内で細胞培養を実施していること	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	院内で細胞培養を実施していること	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	院内で細胞培養を実施していること	(変更なし)

分類	⑧ 放射線治療・再生医療・免疫療法 (8技術)
----	-------------------------

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

Ⅲ. その他の要件

Ⅲ-01 頻回の実績報告

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	—	(変更なし)
	25	重粒子線治療	—	(変更なし)
再生医療	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	5例まで又は6月間は、1月毎の報告	(変更なし)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	5例まで又は6月間は、1月毎の報告	(変更なし)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	5例まで又は6月間は、1月毎の報告	(変更なし)
免疫療法関係	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	10例まで又は6月間は、1月毎の報告	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	10例まで又は6月間は、1月毎の報告	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	10例まで又は6月間は、1月毎の報告	(変更なし)

Ⅲ-02 その他

	番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
粒子線	17	陽子線治療	—	(変更なし)
	25	重粒子線治療	—	(変更なし)
再生医療	20	骨髄細胞移植による血管新生療法	—	(変更なし)
	44	末梢血幹細胞による血管再生治療	—	(変更なし)
	45	末梢血単核球移植による血管再生治療	—	(変更なし)
免疫療法関係	61	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	—	(変更なし)
	62	自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	—	(変更なし)
	63	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	—	(変更なし)

対象技術一覧

番号	先進医療技術名称 (正式名称)		適応症
	22 年 3 月以前	新 技 術 名	
4	インプラント義歯 (顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。)	インプラント義歯	次のいずれかに該当するもの 1 腫瘍、顎骨髄炎、外傷等の疾患による広範囲の顎骨欠損若しくは歯槽骨欠損 (上顎にあっては、連続した3分の1顎程度以上の顎骨欠損又は上顎洞若しくは鼻腔への交通が認められる顎骨欠損に、下顎にあっては、連続した3分の1顎程度以上の歯槽骨欠損 (歯周疾患又は加齢による歯槽骨吸収によるものを除く。)) 又は下顎区域切除以上の顎骨欠損に限る。)) 又はこれらの欠損が骨移植等により再建されたものうち、従来のブリッジや可撤性義歯 (顎堤形成後の可撤性義歯を含む。)) では咀嚼機能の回復が困難なもの 2 Cawood & Howell の顎堤吸収分類の V 級又は VI 級に相当する顎骨の過度の吸収が全顎にわたって認められる無歯顎であって、従来の全部床義歯 (顎堤形成後の全部床義歯を含む。)) では咀嚼機能の回復が困難なもの
5	顎顔面補綴 (腫瘍手術、外傷及び炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。)	顎顔面補綴	腫瘍手術、外傷、炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法 (歯冠部齶蝕の修復に係るものに限る。)	光学印象採得による陶材歯冠修復法	歯冠部う蝕
52	X 線 CT 画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術 (難治性根尖性歯周炎であって、通常の根管治療では効果が認められないものに限る。)	X 線 CT 画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	難治性根尖性歯周炎 (通常の根管治療では効果が認められないものに限る。)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法 (歯周炎による重度垂直性骨欠損に係るものに限る。)	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	歯周炎による重度垂直性骨欠損
77	歯科用 CAD・CAM システムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴 (小臼歯の重度の齶蝕に対して全部被覆冠による歯冠補綴が必要な場合に限る。)	歯科用 CAD・CAM システムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	小臼歯の重度のう蝕に対して全部被覆冠による歯冠補綴が必要なもの

I. 実施責任医師の要件

I-01 診療科 (医師)

番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
4	インプラント義歯	歯科又は歯科口腔外科	(変更なし)
5	顎顔面補綴	形成外科又は歯科若しくは歯科口腔外科	形成外科、耳鼻いんこう科、歯科又は歯科口腔外科
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	歯科	(変更なし)
52	X 線 CT 画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	歯科	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	歯科又は歯科口腔外科	(変更なし)
77	歯科用 CAD・CAM システムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	歯科	(変更なし)

I-02 資格

番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
4	インプラント義歯	歯周病専門医、口腔外科専門医、補綴歯科専門医又は日本口腔インプラント学会専門医	歯周病専門医、口腔外科専門医、補綴歯科専門医又は口腔インプラント専門医
5	顎顔面補綴	形成外科専門医又は口腔外科専門医若しくは補綴歯科専門医	形成外科専門医、耳鼻咽喉科専門医、口腔外科専門医又は補綴歯科専門医
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	補綴歯科専門医又は歯科保存治療専門医	(変更なし)
52	X 線 CT 画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	歯科保存治療専門医	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	歯周病専門医又は口腔外科専門医	(変更なし)
77	歯科用 CAD・CAM システムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	補綴歯科専門医又は歯科保存治療専門医	(変更なし)

I-03 当該診療科の経験年数

番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
4	インプラント義歯	5 年以上	(変更なし)
5	顎顔面補綴	5 年以上	(変更なし)
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	3 年以上	5 年以上
52	X 線 CT 画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	5 年以上	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	5 年以上	(変更なし)
77	歯科用 CAD・CAM システムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	3 年以上	5 年以上

分類 ⑨ 歯科 (6 技術)

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

I-04 当該技術の経験年数

番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
4	インプラント義歯	3 年以上	(変更なし)
5	顎顔面補綴	5 年以上	3 年以上
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	3 年以上	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	3 年以上	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	3 年以上	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	1 年以上	(変更なし)

I-05 当該技術の経験症例数

番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
4	インプラント義歯	10 例以上	(変更なし)
5	顎顔面補綴	術者として 5 例以上	術者として 2 例以上
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	術者として 5 例以上	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	助手又は術者として 6 例以上、うち術者として 5 例以上	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	助手又は術者として 6 例以上、うち術者として 5 例以上	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	5 例以上	(変更なし)

I-06 その他 (医師)

番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
4	インプラント義歯	—	(変更なし)
5	顎顔面補綴	—	(変更なし)
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	—	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	—	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	—	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	—	(変更なし)

II. 医療機関の要件

II-01 診療科 (医療機関)

番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
4	インプラント義歯	歯科又は歯科口腔外科	(変更なし)
5	顎顔面補綴	形成外科又は歯科若しくは歯科口腔外科	形成外科、耳鼻いんこう科、歯科又は歯科口腔外科
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	歯科	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	歯科	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	歯科又は歯科口腔外科	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	歯科	(変更なし)

II-02 実施診療科の医師数

番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
4	インプラント義歯	実施責任医師の要件のうち診療科経験年数、医師資格及び当該療養の経験年数を満たす常勤の歯科医師 3 名以上	常勤歯科医師 3 名以上
5	顎顔面補綴	実施責任医師の要件のうち診療科経験年数、医師資格及び当該療養の経験年数を満たす常勤の医師又は歯科医師 2 名以上	常勤の医師又は歯科医師 2 名以上
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	実施責任医師の要件のうち診療科経験年数、医師資格及び当該療養の経験年数を満たす常勤の歯科医師 3 名以上	常勤歯科医師 1 名以上
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	実施責任医師の要件のうち診療科経験年数及び当該療養の経験年数を満たす常勤歯科医師 2 名以上、うち歯科保存治療専門医 1 名以上	常勤歯科医師 2 名以上 (うち 1 名は、常勤の歯科保存治療専門医であること)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	実施責任医師の要件のうち医師資格及び当該療養の経験年数を満たす常勤歯科医師 1 名以上	常勤歯科医師 1 名以上
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	常勤歯科医師 1 名以上	常勤歯科医師 1 名以上

II-03 他診療科の医師数

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
4	インプラント義歯	—	(変更なし)
5	顎顔面補綴	—	(変更なし)
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	—	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	—	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	—	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	—	(変更なし)

II-04 その他医療従事者の配置

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
4	インプラント義歯	—	看護師又は歯科衛生士1名以上
5	顎顔面補綴	—	(変更なし)
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	—	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	看護師又は歯科衛生士1名以上	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	看護師又は歯科衛生士1名以上	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	歯科衛生士及び歯科技工士1名以上	(変更なし)

II-05 病床数

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
4	インプラント義歯	1床以上	20床以上
5	顎顔面補綴	1床以上	(変更なし)
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	—	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	—	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	—	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	—	(変更なし)

II-06 看護配置

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
4	インプラント義歯	入院患者の数が15又はその端数を増すごとに1名以上(ただし、当該病棟において、一日に看護を行う看護職員の数が前段に規定する数に相当する数以上である場合には、当該病棟における夜勤を行う看護職員の数が、前段の規定にかかわらず、二以上であること。)	(削除)
5	顎顔面補綴	入院患者の数が15又はその端数を増すごとに1名以上(ただし、当該病棟において、一日に看護を行う看護職員の数が前段に規定する数に相当する数以上である場合には、当該病棟における夜勤を行う看護職員の数が、前段の規定にかかわらず、二以上であること。)	(削除)
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	—	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	—	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	—	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	—	(変更なし)

II-07 当直体制

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
4	インプラント義歯	要	(変更なし)
5	顎顔面補綴	—	(変更なし)
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	—	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	—	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	—	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	—	(変更なし)

II-08 緊急手術の実施体制

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
4	インプラント義歯	—	要
5	顎顔面補綴	—	(変更なし)
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	—	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	—	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	—	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	—	(変更なし)

分類	⑨ 歯科 (6 技術)
----	-------------

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II-09 院内検査 (24 時間実施体制)

番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
4	インプラント義歯	—	要
5	顎顔面補綴	—	(変更なし)
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	—	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	—	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	—	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	—	(変更なし)

II-10 他の医療機関との連携体制

番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
4	インプラント義歯	—	(変更なし)
5	顎顔面補綴	—	(変更なし)
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	—	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	—	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	—	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	—	(変更なし)

II-11 医療機器の保守管理体制

番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
4	インプラント義歯	要	(変更なし)
5	顎顔面補綴	要	(変更なし)
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	要	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	要	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	要	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	要	要

II-12 倫理委員会による審査体制

番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
4	インプラント義歯	—	(変更なし)
5	顎顔面補綴	—	(変更なし)
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	—	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	—	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	—	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	—	(変更なし)

II-13 医療安全管理委員会の設置

番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
4	インプラント義歯	要	(変更なし)
5	顎顔面補綴	要	(変更なし)
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	要	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	要	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	要	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	要	(変更なし)

II-14 当該技術の実施症例数

番号	先進医療新技術名称	22 年 3 月以前	22 年 4 月以降
4	インプラント義歯	10 例以上	(変更なし)
5	顎顔面補綴	10 例以上	2 例以上
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	10 例以上	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	10 例以上	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	10 例以上	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	5 例以上	(変更なし)

分類	⑨ 歯科 (6技術)
----	------------

平成 22 年度先進医療 医療機関の要件 (分類別比較)

II-15 その他 (医療機関)

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
4	インプラント義歯	—	コンピューター断層撮影及び診断を実施できる体制を整備していること
5	顎顔面補綴	—	(変更なし)
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	—	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	—	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	—	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	—	当該技術に必要な機器を設置していること

III. その他の要件

III-01 頻回の実績報告

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
4	インプラント義歯	10例まで又は2月間は、1月毎の報告	(変更なし)
5	顎顔面補綴	10例まで又は6月間は、1月毎の報告	5例まで又は6月間は、1月毎の報告
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	10例まで又は6月間は、1月毎の報告	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	20例まで又は6月間は、1月毎の報告	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	20例まで又は6月間は、1月毎の報告	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	10例まで又は6月間は、1月毎の報告	(変更なし)

III-02 その他

番号	先進医療新技術名称	22年3月以前	22年4月以降
4	インプラント義歯	—	(変更なし)
5	顎顔面補綴	—	(変更なし)
7	光学印象採得による陶材歯冠修復法	—	(変更なし)
52	X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	—	(変更なし)
56	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	—	(変更なし)
77	歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴	—	(変更なし)